

目 次

Syllabus

開講科目一覧	3
アクティブラーニング要素表	7

〔令和2年度入学生〕

【共通科目】

教養基礎演習（教養基礎演習Ⅰ）	9
情報技術（情報技術Ⅰ）	12
ビジネスエクセル（情報技術Ⅱ）	15
ビジネスワード（情報技術Ⅲ）	18
ビジネスパワーポイント（情報技術Ⅳ）	21
心理学	24
異文化と世界	27
ボランティア論	36
キャリア形成Ⅰ	39
キャリア形成Ⅱ	42
ビジネスマナー	45
運動と健康	48
標準英語スキルズ	51
英会話	57

【家政科コア科目】

家政学概論	63
食生活論	66
衣・住生活論	69
家族関係学	81

【生活デザイン専攻科目】

〔基礎科目〕

生活デザイン概論	90
調理学	93
社会福祉概論	96
アパレル素材・管理学	99
グラフィックソフト実習	102
マーケティング概論	105

〔プロダクトデザイン〕

テキスタイルデザイン実習Ⅰ （ファッション造形実習Ⅰ）	117
アロマセラピー概論	123
アロマセラピー演習	126
工芸実習（工芸実習Ⅰ）	129
店舗空間デザイン演習	132
調理学実習	135
食べ・ストラテデザイン実習	138

製菓製パン実習Ⅰ	141
製菓製パン実習Ⅱ 〔コミュニケーションデザイン〕	144
ファッション販売演習	156
フードデザイン・マネジメント論	162
フードプランニング論	165
レストランサービス論	171
医療事務サービス論（医療事務）	183
医療事務サービス演習	186
サービス英語コミュニケーション	189

【食物栄養専攻科目】

解剖生理学Ⅰ	198
解剖生理学Ⅱ	201
生化学	207
食品学総論（食品学Ⅰ）	213
食品学各論（食品学Ⅱ）	216
食品材料学実験	219
食品衛生学	222
食品衛生学実験	228
基礎栄養学（栄養学Ⅰ）	234
応用栄養学Ⅰ（栄養学Ⅱ）	237
応用栄養学Ⅱ（栄養学Ⅱ）	240
臨床栄養学（臨床栄養学Ⅰ）	243
調理学	270
調理学実験	273
調理学実習Ⅰ	276
給食計画・実務論Ⅰ（献立作成論）	282
給食計画・実務論Ⅱ	285
給食計画・実務論実習Ⅰ	288
給食計画・実務論実習Ⅱ（給食管理実習Ⅰ）	291
栄養士数学演習a	297
栄養士数学演習b	300
基礎調理学実習	303
フードコーディネーター論	318
フードデザイン・マネジメント論	162
フードプランニング論	165
栄養士実力養成演習Ⅰ	324

【支援科目】

生活数理演習	330
英語基礎演習 a	333
英語基礎演習 b	336

【支援講座】

医療事務支援講座Ⅰ	339
医療事務支援講座Ⅱ	339
情報技術活用講座	340
ファッション資格対策講座	341

〔2019年度入学生〕**【共通科目】**

ビジネスエクセル	15
ビジネスワード	18
ビジネスパワーポイント	21
教養としての経済学	30
日本国憲法と法律（日本国憲法）	33
ビジネスマナー（秘書技能）	45
英語コミュニケーションⅡ	54
英会話	57
教養基礎演習Ⅱ	60

【家政科コア科目】

妊娠と出産の科学	75
家庭経営学	78
介護概論	84
消費生活と環境	87
衣生活論	72

【生活デザイン専攻科目】**〔基礎科目〕**

食品衛生学	108
食文化論	111
カラーコーディネート演習	114

〔コミュニケーションデザイン〕

インテリアコーディネート演習	159
フードコーディネート実習	168
レストランサービス実習	174
福祉住環境コーディネート概論	177
ユニバーサルデザイン概論	180
サービス英語コミュニケーション	189

〔プロダクトデザイン〕

工芸実習Ⅱ（クラフト実習・クラフト実習Ⅱ）	120
食品加工学実習	150
介護食実習	153
製菓製パン実習Ⅰ	141
製菓製パン実習Ⅱ	144
デジタルデザイン演習	147
アロマセラピー概論	123
アロマセラピー演習	126

【食物栄養専攻科目】

公衆衛生学	192
社会福祉概論	195
解剖生理学実験	204
生化学実験	210
食品衛生学	225
食品衛生学実験	231
臨床栄養学Ⅱ	246
臨床栄養学実習Ⅰ	249
臨床栄養学実習Ⅱ	252
栄養指導論Ⅰ	255
栄養指導論Ⅱ	258
栄養指導論実習Ⅰ	261
栄養指導論実習Ⅱ	264
公衆栄養学	267
調理学実習Ⅱ	279
給食管理実習Ⅱ	294
食文化論	111
食品学実験Ⅱ	306
食品の官能評価・鑑別論	309
フードスペシャリスト論	312
フードマーケティング論	315
フードコーディネーター実習	168
栄養統計学演習	321
栄養士実力養成演習Ⅱ	327

【支援講座】

医療事務支援講座Ⅰ	339
医療事務支援講座Ⅱ	339
情報技術活用講座	340
デザインコンテスト講座	340
ファッション資格対策講座	341

令和2年度 開講科目一覧

生活デザイン専攻						
授業科目			読み替え科目	担当者	開講期間 前・後	Page
対象年次	1年次	2年次	()内対象入学年度			
共通科目	教養基礎演習		教養基礎演習 I (2018)	渡辺淳、畑久美子、米山陽子、パッケ伊東	前	9
	情報技術		情報技術 I (2018)	准教授:前田康智	前	12
	ビジネスエクセル	ビジネスエクセル	情報技術 II (2018)	准教授:前田康智	後	15
	ビジネスワード	ビジネスワード	情報技術 III (2018)	准教授:前田康智	後	18
	ビジネスパワーポイント	ビジネスパワーポイント	情報技術 IV (2018)	准教授:前田康智	後	21
	心理学			非常勤講師:原島雅之 非常勤講師:佐久間直人	前	24
	異文化と世界			教授:渡辺淳	後	27
	ボランティア論			教授:中野都	前	36
	キャリア形成 I			准教授:小田島祐美子	前	39
	キャリア形成 II			准教授:前田康智	後	42
	ビジネスマナー	ビジネスマナー	秘書技能 (2018)	准教授:小田島祐美子	前	45
	運動と健康			非常勤講師:佐藤久乃	後	48
	標準英語スキルズ		英語コミュニケーション I (2019)	教授:渡辺淳 非常勤講師:リチャード・オステン	後	51
	英会話	英会話		非常勤講師:リチャード・オステン	前	57
		教養としての経済学		教授:渡辺淳	前	30
		日本国憲法と法律	日本国憲法 (2018)	非常勤講師:友寄隆信	前	33
	英語コミュニケーション II		教授:渡辺淳	前	54	
	教養基礎演習 II		教授:渡辺淳	後	60	
家政科コア科目	家政学概論			非常勤講師:木林祥子	前	63
	食生活論			准教授:三星沙織	前	66
	衣・住生活論			准教授:畑久美子 非常勤講師:山村美保里	前	69
	家族関係学			教授:渡辺淳	後	81
		妊娠と出産の科学		客員教授:岩倉弘毅	前	75
		家庭経営学		非常勤講師:木林祥子	前	78
		介護概論		教授:中野都	前	84
		消費生活と環境		教授:渡辺淳	後	87
	衣生活論		准教授:畑久美子	前	72	
基礎科目	生活デザイン概論			准教授:畑久美子	前	90
	調理学			教授:平尾和子	前	93
	社会福祉概論(生デ)			教授:中野都	前	96
	アパレル素材・管理学			准教授:畑久美子	後	99
	グラフィックソフト実習			教授:パッケ伊東	後	102
	マーケティング概論			教授:パッケ伊東	後	105
		食品衛生学		教授:江木伸子	前	108
		食文化論		講師:米山陽子	前	111
	カラーコーディネート演習		准教授:畑久美子	前	114	
専攻科目	テキスタイルデザイン実習 I		ファッション造形実習 I (2019)	非常勤講師:秋山敦子 非常勤講師:木林祥子	前	117
		工芸実習 II	クラフト実習(2019)・クラフト実習 II(2018)	准教授:畑久美子	前	120
	アロマテラピー概論	アロマテラピー概論		非常勤講師:久保田裕子	前	123
	アロマテラピー演習	アロマテラピー演習		非常勤講師:久保田裕子	後	126
	工芸実習		工芸実習 I (2019)	非常勤講師:本郷芳哉	後	129
	店舗空間デザイン演習			教授:パッケ伊東	後	132
	調理学実習			講師:米山陽子	後	135
	食ベ・ストラテデザイン実習			教授:パッケ伊東	後	138
	製菓製パン実習 I	製菓製パン実習 I		非常勤講師:森崎繭香	前	141
	製菓製パン実習 II	製菓製パン実習 II		講師:米山陽子	後	144
		デジタルデザイン演習		教授:パッケ伊東	後	147
		食品加工学実習		准教授:三星沙織	後	150
		介護食実習		准教授:小田島祐美子	後	153
	コミュニケーションセンター・サイン	ファッション販売演習			准教授:畑久美子	後
フードデザイン・マネジメント論				非常勤講師:米山陽子	後	162
フードプランニング論				非常勤講師:能勢美佐子	後	165
レストランサービス論				非常勤講師:能勢美佐子	後	171
医療事務サービス論			医療事務(2018)	非常勤講師:内藤麻紀	前	183
医療事務サービス演習				教授:中野都	前	186
サービス英語コミュニケーション				非常勤講師:リチャード・オステン 非常勤講師:江口真由美	後	189

生活デザイン専攻

授業科目		読み替え科目	担当者	開講期間 前・後	Page
対象年次	1年次	2年次			
専攻科目		インテリアコーディネート演習		非常勤講師:山村 美保里	後 159
		フードコーディネート実習		非常勤講師:大石 正子	前 168
		レストランサービス実習		非常勤講師:大石 正子 非常勤講師:真島 久美	前 174
		福祉住環境コーディネート概論		非常勤講師:山村 美保里	前 177
		ユニバーサルデザイン概論		准教授:畑 久美子	後 180
支援科目	生活数理演習		生活数理演習 I (2018)	准教授:前田 康智	前 330
	英語基礎演習a			教授:渡辺 淳	前 333
	英語基礎演習b			准教授:前田 康智	前 336
支援講座	医療事務支援講座 I	医療事務支援講座 I		准教授:前田 康智	前 339
	医療事務支援講座 II	医療事務支援講座 II		教授:中野 都	後 339
	情報技術活用講座	情報技術活用講座		准教授:前田 康智	前後 340
		デザインコンテスト講座		教授:パッケ伊東	前後 340
	ファッション資格対策講座	ファッション資格対策講座		准教授:畑 久美子	前後 341

令和2年度 開講科目一覧

食物栄養専攻						
対象年次	授業科目		読み替え科目	担当者	開講期間	Page
	1年次	2年次	()内対象入学年度		前・後	
共通科目	教養基礎演習		教養基礎演習 I (2018)	渡辺淳、畑久美子、米山陽子、バツケ伊東	前	9
	情報技術		情報技術 I (2018)	准教授 前田 康 智	前	12
	ビジネスエクセル	ビジネスエクセル	情報技術 II (2018)	准教授 前田 康 智	後	15
	ビジネスワード	ビジネスワード	情報技術 III (2018)	准教授 前田 康 智	後	18
	ビジネスパワーポイント	ビジネスパワーポイント	情報技術 IV (2018)	准教授 前田 康 智	後	21
	心理学			非常勤講師 原 島 雅 之 非常勤講師 佐 久 間 直 人	前	24
	異文化と世界			教 授 渡 辺 淳	後	27
	ボランティア論			教 授 中 野 都	前	36
	キャリア形成 I			准教授 小田島 祐美子	前	39
	キャリア形成 II			准教授 前田 康 智	後	42
	ビジネスマナー	ビジネスマナー	秘書技能 (2018)	准教授 小田島 祐美子	前	45
	運動と健康			非常勤講師 佐 藤 久 乃	後	48
	標準英語スキルズ		英語コミュニケーション I (2019)	教 授 渡 辺 淳 非常勤講師 リチャード・オステン	後	51
	英会話	英会話		非常勤講師 リチャード・オステン	前	57
		教養としての経済学		教 授 渡 辺 淳	前	30
		日本国憲法と法律	日本国憲法 (2018)	非常勤講師 友 寄 隆 信	前	33
	英語コミュニケーション II		教 授 渡 辺 淳	前	54	
	教養基礎演習 II		教 授 渡 辺 淳	後	60	
家政科コア科目	家政学概論			非常勤講師 木 林 祥 子	前	63
	衣・住生活論			准教授 畑 久 美 子 非常勤講師 山 村 美 保 里	前	69
	家族関係学			教 授 渡 辺 淳	後	81
		妊娠と出産の科学		客員教授 岩 倉 弘 毅	前	75
		家庭経営学		非常勤講師 木 林 祥 子	前	78
		介護概論		教 授 中 野 都	前	84
	消費生活と環境		教 授 渡 辺 淳	後	87	
専攻科目		公衆衛生学		非常勤講師 菅 野 公 司	前	192
		社会福祉概論(食栄)		教 授 中 野 都	後	195
		解剖生理学 I		非常勤講師 古 谷 彰 子	前	198
		解剖生理学 II		非常勤講師 古 谷 彰 子	後	201
		解剖生理学実験		非常勤講師 古 谷 彰 子	後	204
		生化学		教 授 江 木 伸 子	後	207
		生化学実験		教 授 江 木 伸 子	後	210
		食品学総論	食品学 I (2019)	教 授 江 木 伸 子	前	213
		食品学各論	食品学 II (2019)	准教授 三 星 沙 織	後	216
		食品材料学実験		教 授 江 木 伸 子	前	219
		食品衛生学	食品衛生学	准教授 三 星 沙 織	前	222,225
		食品衛生学実験	食品衛生学実験	准教授 三 星 沙 織	後	228,231
		基礎栄養学	栄養学 I	非常勤講師 古 谷 彰 子	前	234
		応用栄養学 I	栄養学 II	非常勤講師 古 谷 彰 子	前	237
		応用栄養学 II	栄養学 II	准教授 小田島 祐美子	後	240
		臨床栄養学	臨床栄養学 I (2019)	准教授 小田島 祐美子	後	243
		臨床栄養学 II		准教授 小田島 祐美子	後	246
		臨床栄養学実習 I		准教授 小田島 祐美子	前	249
		臨床栄養学実習 II		准教授 小田島 祐美子	後	252
		栄養指導論 I		准教授 神 田 聖 子	前	255
		栄養指導論 II		准教授 神 田 聖 子	後	258
		栄養指導論実習 I		准教授 神 田 聖 子	前	261
		栄養指導論実習 II		准教授 神 田 聖 子	後	264
		公衆栄養学		准教授 小田島 祐美子	前	267
		調理学		教 授 平 尾 和 子	前	270
		調理学実験		講 師 米 山 陽 子	前	273
	調理学実習 I		准教授 三 星 沙 織	後	276	
	調理学実習 II		教 授 平 尾 和 子	後	279	

食物栄養専攻						
授業科目			読み替え科目	担当者	開講期間 前・後	Page
対象年次	1年次	2年次	()内対象入学年度			
専攻科目	給食計画・実務論Ⅰ		献立作成論	准教授:神田 聖子	前	282
	給食計画・実務論Ⅱ			教授:中野 都	後	285
	給食計画・実務論実習Ⅰ			准教授:神田 聖子	前	288
	給食計画・実務論実習Ⅱ		給食管理実習Ⅰ	教授:中野 都	後	291
		給食管理実習Ⅱ		教授:中野 都	後	294
		食文化論		講師:米山 陽子	前	111
	栄養士数学演習a			准教授:前田 康智	前	297
	栄養士数学演習b			教授:渡辺 淳	前	300
	基礎調理学実習			准教授:三星 沙織	前	303
		食品学実験Ⅱ		准教授:三星 沙織	後	306
		食品の官能評価・鑑別論		講師:米山 陽子	前	309
		フードスペシャリスト論		教授:江木 伸子	後	312
		フードマーケティング論		教授:江木 伸子	前	315
	フードコーディネータ論			講師:米山 陽子	前	318
		フードコーディネータ実習		非常勤講師:大石 正子	前	168
	フードデザイン・フードマネジメント論			講師:米山 陽子	後	162
	フードプランニング論			非常勤講師:能勢 美佐子	後	165
		栄養統計学演習		准教授:前田 康智	前	321
	栄養士実力養成演習Ⅰ			教授:江木 伸子 准教授:神田 聖子	後	324
		栄養士実力養成演習Ⅱ		准教授:江木 伸子 准教授:神田 聖子	後	327
科支目援	英語基礎演習a			教授:渡辺 淳	前	333
	英語基礎演習b			准教授:前田 康智	前	336
支援講座	情報技術活用講座	情報技術活用講座		准教授:前田 康智	前後	340

アクティブ・ラーニング要素表

要素番号	手法	概要	アクティブ・ラーニング科目を構成する際の留意事項	
【1】	Problem Based Learning, Project Based Learning	Problem Based Learningとは、問題解決を主目的として、学習者主体で実践されるグループ学習である。Project Based Learningとは、具体的な学修課題をたて、一人ないしチームでプロジェクトを遂行しながら行う学習である。いずれも学生が自主的に学修することが求められる。	「ペア・グループワーク」や「プレゼンテーション」等と組み合わせて実施することが想定される。学生が主体となり課題を解決する方法を考え、計画を立てて学修を進めるといふ、初年次の学生にとっては比較的高度な学修法ともいえるので、課題レベル設定や適切な学修支援（チューターによる補助など）に配慮が必要である。ポートフォリオの利用も考えられる。	
【2】	クリッカーを用いたレスポンス	教員の質問に対し、学生がクリッカー（情報送信機）のボタンを押して答える形態である。レスポンスシステムとも呼ばれる。その結果が瞬時に集計され、スクリーンに表示される。学生は自らの意見の正誤や他の学生の意見を即時に知ることができる。意思表示を手軽に行えるので、授業への参加意欲が促される。	教員は学生の全体的な反応を確認しながら授業を進めることができる。しかし、クリッカーはアクティブ・ラーニング化を支援するシステムなので、他の手法と組み合わせるなど、主体的な学修を促進するような授業設計をする工夫が必要となる。	
【3】	調査研究	教員が提示したテーマや課題に対して、図書館等で参考図書、新聞・雑誌、統計資料を調べたり、DVD映像やインターネットのメディアを活用して情報収集を行い、結果をまとめ、発表する学習方法である。	単にレポートを課すだけでは、アクティブ・ラーニングとはいえない。学生によるプレゼンテーションへつなげたり、フィードバックを行ったりして、調査情報の質を高めたり、調査の成果を用いながら、学生がさらに学修を深めていく工夫が重要となる。	
【4】	フィールド・ワーク	教員が提示したテーマや課題に対して、実施調査・研究等を行う学習方法である。	学修課題をフィールド・ワークに取り組み、学習者が実施での活動を行い、学修課題についての理解を深めることが必要である。	
【5】	実験	理論や仮説を様々な条件の下で検証する学習方法である。学生が知識を活かして実際に行動することによって理解を深めると同時に、結果を整理してまとめる力を身につけることが期待される。	教養教育で準備できる範囲の部屋や器具類で実施計画を立てること。実験を通して主題に対する探求を深めていくことが大切である。実験自体は主体的な活動ではあるが、実験の事前教育、実験過程での学習者の主体的・能動的な取り組みへの指導が必要である。	特に自然科学系分野では、設定された課題について、学生が（協力して）自らの活動を通じて解決したり、講義で学んだ原理や現象を、学生自身が追体験して確認する要素が含まれていることが重要である。
【6】	実習	講義などで学んだ技術や方法等を実際の場面で展開することで、理論と実践の関係を深める学習の方法である。学生が実践的な力量をつけるとともに、実践を理論的に省察すること、そのことでさらに実践力や課題への取り組みの姿勢の向上が期待される。	実習・実技は必ずしも、単純にアクティブ・ラーニングとはならない。講義等での学修内容・知識と、実習・実技で身につける知識・技能とが有機的に結びつく必要がある。	したがって、単に計測器の取扱い法等について学ぶような実験・実習はアクティブ・ラーニングとはならない。
【7】	実技	技術や演技などが直接的な学習であるような授業方法。		
【8】	ロール・プレイング・シミュレーション	現実に起こる場面を想定して、参加者がそれぞれに与えられた役割を演じ（ロールプレイ）、疑似体験（シミュレート）する学習法である。技術・技能の修得や、現実的なケースにおける多面的な見方、態度・姿勢の涵養、他人の立場への理解などを促進する際に効果的である。	ロールプレイやシミュレーションを取り入れるためにはその事柄に対する知識・理解が必要。教員による適切な場面の設定と、役割分担を話し合い等を通して決めるなど、学生相互の関わりも重要になる。	

アクティブ・ラーニング要素表

【9】	ペア・グループワーク	教員から与えられた課題に対して、ペアもしくは小グループ（3人から6人程度が一般的）で相互協力を行いながら学修を進めていく協同学習のことである。グループ構成員が相互協力して共同作業をする。	作業手順の明確化、課題解決への探求方法や手がかりをどのように準備するかが重要になる。円滑なペアワークやグループワークを行うために、協同学習の考えを取り入れながら授業の準備や設計を行うことが望まれる。学習者が明確な役割を持って学修を進められるような課題の設定をし、また互恵的な協力関係を生み出せるよう人間関係に配慮することが必要である。グループワークは必ず授業時間内に終了することが必要である。
【10】	ディベート	課題討議法の一つで、ある公的なテーマについて肯定側と否定側の立場から、立論・反論といった論戦を通じて、第三者を客観的な証拠に基づいて説得するコミュニケーション形態である。ディベートを通して、自分の意見や問題意識を持ったり、論理的な考え方ができるようになるといった効果が期待される。	多数の受講者を一括した討議は一般的とは言えない。討議の成果が可能な授業設計が必要である。小グループで交代しながら討議を繰り返す場合には、それ以外の学生が果たす役割を明確にしておく必要がある。成績評価方法についても明確にし、予め受講者に示しておくことも重要である。また、テーマの難易度が高すぎる場合にはうまく機能しないことのあるため、教員は進行をよく観察し、時には介入することも必要である。学生同士で議論させる機会を作るだけでなく、議論を行うための知識や経験を持たせた上でお互いの考えを深めたり、議論の結果としてテーマに関する学修を深める意欲につながったりするように、授業を設計する必要がある。
【11】	ディスカッション	グループでの討議・話し合い。学生同士の相互の意見交換を通して、各人の持つ知識・経験などが共有され、討議課題への理解が深まることが期待される。自由討議法は、内容も役割も自由に議論することになる。	プレゼンテーションの回数と成績評価方法を予め明確にしておく必要がある。プレゼンテーションをする学生と聞く学生の学修課題の明確化、評価基準の明確化が必要である。プレゼンテーションを聞くことが、学び合いにつながるように、質疑応答の時間を十分に確保すること、プレゼンテーション後に各学生が何を学んだかを振り返る機会も設けることなども考慮することが重要である。
【12】	プレゼンテーション	指示されたテーマや課題について、グループもしくは単独で調査・学習を行い、聴衆の前で発表形態。発表形式は、パワーポイントなどの情報機器を活用したものや、ポスターセッションなど様々である。発表後は他の受講者や教員からの質疑に回答する。	単純に学生に書物の部分を割り振り、発表させるのではなく、教員側では論じ合う問題点や解釈を適宜チャネリングすることも必要である。輪読する書物の選択は十分な考慮を必要とする。受講者数を考えた授業設計は必要であり、例えば50名の受講者なら、発表者が5名で、10回で全員が担当する場合には、各回で残りの45名が何をするのかを、全員の学習機会の保証という視点で考えておく必要がある。またそれに伴った成績評価方法も必要である。
【13】	輪読学習	書物を数人が順番に読んで解釈し、問題点について論じ合う学習方法である。一般的には、書物をいくつかの部分に分け、それぞれ担当者に割り当て、担当者はその部分の論点をまとめ、授業で発表する。それを受けて、分からなかった部分や疑問点などについて、各自の見解を論じ合う。	学生の能動的な学修をひきだすところにねらいがある。出題した課題の解答例や解説を示すとともに、双方向演習としてのフィードバックが不可欠となる。
【14】	双方向型問題演習	与えられた課題やテーマについて学生が答案やレポート・小論文を作成し、それを教員が添削・採点してフィードバックしたものを、再度学生が確認し理解を深める学習方法である。教員とコミュニケーションをとることにより、学修意欲を引き出すねらいもある。学生は自らの理解度を確認し、新たな気づきや課題を見いだすことが期待される。	学生は、講義を聞いただけ、体験しただけでは、次の機会に学修内容を応用できない可能性があり、学修内容や自らの言動を振り返る機会を設けることが有効であるという考え方に基づく。振り返りを促すための支援方法が重要であり、単に振り返るだけでなく、その後の主体的（能動的）学修へつなげることが重要である。
【15】	双方向型執筆演習		
【16】	振り返り	授業の途中や終了時に、理解したことや分からなかったこと等について確認を行い、理解の促進を図る学習方法である。確認の方法としては、振り返りシート等の記入、確認テスト（小テスト）、ペア・グループワークによる意見の共有などがある。	
【17】	体験型学習	教員による講義等を中心とする授業形態ではなく、学外機関・企業等における体験学習を中心とする、インターンシップ、サービス・ラーニング、ボランティア活動などが挙げられる。	学外における体験活動等を完結するだけではアクティブ・ラーニングとはならない。事前準備・指導、体験活動・事後指導・展開等を通して主体的な学修に要する総学修時間の確保が不可欠である。活動期間中における受け入れ先の評価と併せて、事前事後の取組状況を加味して評価を行うことが重要である。また、成績評価法の明確化が必要である。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
教養基礎演習 (教養基礎演習Ⅰ)	卒業必修	共通	1年 前学期	演習	1	三星・渡辺・伊東・ 畑・米山・平尾・中野	複数・ クラス分 け
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				6・7,8, 9,11,12	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>本学の学生として身につけてほしい基礎的な知識・技能を学び、その中から豊かな生活をするために必要な事項を自ら選択することができるようになるために設定した科目である。はじめに本学園の礎となる、建学の精神・校訓・歴史・伝統について学ぶ。そのうえで、社会で活動するために必要となる基礎的な知識及び能力・豊かな教養を身につける。さらにこの学習成果を獲得するために欠かせない、円滑なコミュニケーション方法やマナー、社会常識について理解し、活用できるようにする。また、短期大学で必要とされる学修方法を習得するために、レポートや文章の書き方、プレゼンテーション技術および聴講姿勢を身につける。グループで課題を見つけて解決するプロジェクト学習では、多様性を認識し主体的に協働する。</p>							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションやマナーの必要性を説明することができ、短大生として円滑にコミュニケーションすることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・社会生活に必要なマナー・社会常識を理解し、場に応じて使うことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働】 ・プレゼンテーションのために構成を考えて原稿を作成し、聴衆の前で模範的なスピーチをすることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・話者に対して聴く姿勢を示すことができ、質問することができるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働】 ・レポートの書き方や文献の検索方法を理解したうえで、必要事項を満たし、自分の考えを含めた内容のレポートが提出できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・班員に配慮しつつコミュニケーションをとりながら、主体的にプロジェクト学習を進めることができるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションやマナーの必要性を理解し、コミュニケーションすることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・社会生活に必要なマナー・社会常識を理解し使うことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働】 ・プレゼンテーションのための原稿を作成し、聴衆の前でスピーチすることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・話者に対して聴く姿勢を示すことができるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働】 ・レポートの書き方を理解したうえで、必要事項を満たした内容のレポートが提出できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・班員とコミュニケーションをとりながら、プロジェクト学習を進めることができるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働】 							
教科書							
なし							
参考書・資料							
各授業の講師が必要に応じて資料を配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
スピーチ原稿などは添削等ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容により、担当教員が指定したクラス分けを行って実施する。 ・スケジュール、講師はクラスによって異なることがある。 ・講師の都合等により、授業の順序が変更になることもある。 ・授業中のスマートフォンの使用および私語は禁止する。 ・欠席した場合は、出校した際に必ずその回の担当講師に連絡を取る。課題提出の場合が多い。 							
成績評価方法				成績評価基準			
技能及びプレゼンテーション(65%)、 文章表現力(30%)、 受講態度(5%) の総合評価。				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格			

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
教養基礎演習 (教養基礎演習Ⅰ)	卒業必修	共通	1年前学期	演習	1	三星・渡辺・伊東・ 畑・米山・平尾・中野	複数・ クラス分け
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				6・7, 8, 9, 11, 12	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	建学の精神、オリエンテーション	愛国学園の建学の精神・校訓・学園の歴史を学ぶ、本科目の意義と進め方、短大生活におけるマナー、ボランティア活動について。	複数
	事前学習 15分	シラバスを読んでくる。建学の精神と校訓を音読してくる(キャンパスガイド参照)。	
	事後学習 10分	授業の内容を振り返り、短期大学で学ぶということを再度確認する。	
2	コミュニケーションスキル	円滑なコミュニケーションの方法や必要性を学ぶ(外部講師)。	複数
	事前学習 10分	円滑なコミュニケーションの必要性を考えてくる。	
	事後学習 30分	授業の内容を振り返り、日常的に継続して実践する。	
3	自己紹介(プレゼンテーション1)	簡易のスピーチ原稿を作成し、自己紹介のスピーチを行う。他の人のスピーチを聴く。	クラス分け 複数
	事前学習 30分	1分間で自分自身を紹介するための題材について考えてくる。	
	事後学習 20分	自分のスピーチについて振り返り、反省をまとめて提出する。	
4	短期大学に必要な学修方法(初年次教育1)	資料等のファイリング、学生生活における時間管理、成績評価と試験について。	複数
	事前学習 10分	キャンパスガイドの試験についてページを読んでくる。	
	事後学習 30分	自分の生活を振り返り、時間管理について考える。	
5	短期大学に必要な学修方法(初年次教育2)	レポートの書き方、文献の探し方、メールでの資料添付方法	クラス分け 複数
	事前学習 20分	事前に配布するプリントを読んでくる。資料を参照し、フリーメールアドレスを取得しておく。	
	事後学習 30分	レポートを完成させ、提出する。	
6	挨拶・訪問の実践	学生生活に必要な挨拶・訪問等をロールプレイング方式で学ぶ。	クラス分け 複数
	事前学習 10分	先輩の話し方やマナーを観察しておく。伝え方や表現方法を自分なりに考えてくる。	
	事後学習 30分	日常生活で必ず実践する。	
7	プロジェクト学習1	大学生生活を充実させるための課題を班で決め、解決するための戦略や構想を練る。	クラス分け 複数
	事前学習 20分	具体的に大学生生活を充実させるための課題を1つ考えてくる。	
	事後学習 70分	構想をまとめておく。	
8	プロジェクト学習2	課題を解決するために、調査(フィールド取材、インタビューなど)をする。	クラス分け 複数
	事前学習 20分	課題に合った調査方法を考えてくる。	
	事後学習 70分	アンケートやインタビューなど不足している調査収集活動を実施する。	
9	プロジェクト学習3	調査(フィールド取材、インタビューなど)した結果をまとめ、発表用の資料を作成する。	クラス分け 複数
	事前学習 20分	調査のまとめ方や発表方法などを考えてくる。	
	事後学習 70分	プレゼンテーションの原稿や資料をまとめ、分担を決める。	
10	プロジェクト学習4 (プレゼンテーション2、グループ発表)	班ごとに課題を発表する。他班の発表を聴講する。	クラス分け 複数
	事前学習 60分	発表の練習をする。	
	事後学習 30分	学習をふり振り返り、今後の学生生活への活かし方をまとめる。	

11	テーマに沿ったスピーチ1	テーマに沿ったスピーチをするための原稿を作成する。	クラス分け 複数
	事前学習 30分	事前に提示されたテーマから一つ選びスピーチに用いる内容を考えてくる。	
	事後学習 60分	スピーチの原稿の構成を考える。	
12	テーマに沿ったスピーチ2	スピーチ原稿を完成させ、スピーチの練習をする。	クラス分け 複数
	事前学習 60分	原稿の内容をまとめる。	
	事後学習 30分	スピーチの練習をする。	
13	テーマに沿ったスピーチ3 (プレゼンテーション3-1)	発表または他の人の発表を聴講する。	複数
	事前学習 30分	発表の練習をする。	
	事後学習 40分	発表した人は自分の課題をみつけ、修正した原稿を清書して提出する。聴講のみだった人は次回の自分の発表に活かせる点を見つける。	
14	テーマに沿ったスピーチ3 (プレゼンテーション3-2)	発表または他の人の発表を聴講する。	複数
	事前学習 30分	発表の練習をする。	
	事後学習 40分	発表した人は自分の課題をみつけ、修正した原稿を清書して提出する。	
15			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
情報技術 (情報技術Ⅰ)	卒業必修	共通	1年 前学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		なし				6・7, 14	
実務経験のある教員による科目 該当なし							
授業の概要 文書作成ソフトウェアによる各種文書の作成、表計算ソフトウェアによる各種帳票の作成、帳票に必要な計算式・関数の作成、プレゼンテーションソフトウェアによる発表資料の作成についてそれぞれ練習を繰り返し行い、演習課題を通じて理解につなげる。また、情報を取り扱うためのマナーについて学ぶ。							
到達（成績評価A）目標 一般社会（生活面・仕事面）において、さらに大学のほぼ全ての授業において、全ての学生は情報機器の基本的な操作ができることが前提になりつつある。当授業では、情報機器の基本的な操作について、大学生として求められるICT（情報や通信に関する技術）の利活用（リテラシー）について学び、総合的に実施できるようになる。【DP1:知識・技能】							
単位取得（成績評価C）目標 一般社会（生活面・仕事面）において、さらに大学のほぼ全ての授業において、全ての学生は情報機器の基本的な操作ができることが前提になりつつある。当授業では、情報機器の基本的な操作について、大学生として求められるICT（情報や通信に関する技術）の利活用（リテラシー）について学び、基本的部分が実施ができるようになる。【DP1:知識・技能】							
教科書 『情報利活用基本演習Office2019対応』 日経BP社 ¥1,815 『2020年度版 情報倫理ハンドブック』 noa出版 ¥367							
参考書・資料 なし（適宜プリントを配布する）							
教科書以外にかかる費用(自己負担) 特になし							
課題に対するフィードバック 課題説明と説明後の課題作成を経て、受講学生の課題を授業最後に一人一人教員が確認する。問題があればその場で指摘する。							
履修上の注意・備考・メッセージ ・専攻別に2クラスに分けて授業を行う。aクラスは食物栄養専攻、bクラスは生活デザイン専攻である。 ・毎回の授業に演習課題を課す。 ・13, 14回目の授業では情報操作の総復習の問題を課す。							
成績評価方法				成績評価基準			
受講態度(20%) 毎回授業の課題提出(40%) 定期試験(40%) の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格			

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
情報技術 (情報技術 I)	卒業必修	共通	1年 前学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		なし				6・7, 14	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ガイダンス、文書の作成と管理	情報演習室の利用、新規文書の作成・保存、文字の装飾	
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	情報演習室の利用方法を確認、Wordの装飾を復習する	
2	情報を利用する、正しく取り扱う1 一般的なビジネス文書の作成	著作権を遵守する 社外・社内文書の書き方、文字位置（インデント、タブ）	
	事前学習 30分	教科書7ページを読んでくる	
	事後学習 60分	著作権の種類、Wordのインデント・タブを復習する	
3	情報を正しく取り扱う2 レポート・報告書の作成	著作権の例外規定（引用と私的使用）を知る 大学レポートの書き方、段落設定、書式設定	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる	
	事後学習 60分	著作権の引用と私的使用、Wordの段落設定、書式設定を復習する	
4	情報を正しく取り扱う3 他データを利用した文書の作成	肖像権を守る 他文章、Excel、写真の挿入と編集	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる	
	事後学習 60分	肖像権、Wordから写真の挿入と編集を復習する	
5	情報を正しく取り扱う4 表作成の基本動作	個人情報を守る 文字・数値・数式の入力、ブックの保存	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる	
	事後学習 60分	個人情報、Excelの数式の入力を復習する	
6	情報を正しく取り扱う5 表の編集操作	SNSのマナーを知る 幅の調整、表構成の変更、セル内編集	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる	
	事後学習 60分	SNSの使い方、Excelの表の入力・編集を復習する	
7	情報を正しく取り扱う6 数式・関数による集計表の作成	メールの送り方を知る 絶対・相対参照、平均、最大・最小	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる	
	事後学習 60分	メールを送る文面、Excelの基本関数と絶対相対参照を復習する	
8	情報の安全性を守る1 グラフの作成・編集	守るべき情報や安全に運用するポイントを知る グラフのラベル・目盛、要素の書式	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる	
	事後学習 60分	守るべき情報や運用方法、Excelのグラフの作成と編集を復習する	
9	情報の安全性を守る2 プレゼンテーションの基本操作1	安全性を脅かすものを知る スライドのデザイン、箇条書き、段落番号の作成・編集	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる	
	事後学習 60分	ウイルスからの保護、PowerPoint (PP)の基本入力を復習する	
10	情報の安全性を守る3 プレゼンテーションの基本操作2	安全性を守る技術的対策を知る 特殊の文字やイラストの挿入、表やグラフの挿入	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる	
	事後学習 60分	安全技術の方法、PPのグラフ、表の挿入を復習する	

11	プレゼンテーションの基本操作3	図形の挿入、アニメーション効果	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んてくる	
	事後学習 60分	PPの図形の挿入とアニメーションを復習する	
12	プレゼンテーションデザイン イラスト・写真の活用と編集	センスアップのためのレイアウトデザイン イメージを伝えるためのイラスト・写真の編集操作	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んてくる	
	事後学習 60分	訴求効果のあるPPの書き方を復習する	
13	情報操作総復習	Word2019、Excel2019、PowerPoint2019総復習	
	事前学習 30分	総復習で使用した資料を読んてくる	
	事後学習 60分	今までの授業の操作全てを復習する	
14	まとめ	全体の振り返りと定期試験	
	事前学習 30分	総復習で使用した資料を読んてくる	
	事後学習 60分	今までの授業の操作全てを復習する	
15			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ビジネスエクセル (情報技術Ⅱ)	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		情報技術(情報技術Ⅰ) 単位取得者				6・7,14	
実務経験のある教員による科目 該当なし							
授業の概要							
現在の学生生活、その先の仕事や社会生活で使われる可能性の高いものを例に挙げ、表計算ソフトEXCELを活用して処理する方法を取り上げる。時間・金額等のデータ記録管理、検索抽出などのデータ操作と活用、グラフを活用した視覚的な表現力の向上を目指しながら、入力ミスを防ぐ方法や、データベースを表に集計する方法などを学ぶ。							
到達(成績評価A)目標							
さまざまな社会的活用事例を通じて、EXCELの基本・応用的な機能を使いこなしながら、必要に応じてミス無く作成・修正・追加を練習し、一から自分の必要な事例を作成し、総合的に処理することができる。【DP1:知識・技能】							
単位取得(成績評価C)目標							
さまざまな社会的活用事例を通じて、EXCELの基本・応用的な機能を使いこなしながら、必要に応じてミス無く作成・修正・追加を練習し、一から自分の必要な事例を作成し、基本的な部分を処理することができる。【DP1:知識・技能】							
教科書							
なし(毎回資料を配布する)							
参考書・資料							
なし(適宜プリントを配布する)							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題説明と説明後の課題作成を経て、受講学生の課題を授業最後に一人一人教員が確認する。問題があればその場で指摘する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
毎回の授業に演習課題を課す。							
成績評価方法				成績評価基準			
受講態度(20%) 課題提出(80%) の総合評価				S(100-90点):到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点):到達目標を達成している B(79-70点):到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点):単位修得目標を達成している D(59-0点):単位修得目標を達成できていない R:未受験 Z:受験資格失格			

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ビジネスエクセル (情報技術Ⅱ)	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		情報技術(情報技術Ⅰ) 単位取得者				6・7,14	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	アンケート集計	表作成、式・関数計算、条件付き書式、データの抽出	
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
2	アルバイト勤務表	日付、時刻の管理、金額計算	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
3	案内状、納品書	納品書とは、商品コード、商品名の検索、入力規則	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
4	請求書	請求書とは、商品コード、商品名の検索	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
5	売上分析、栄養成分表、体制表	表の印刷、特殊なグラフ、SmartArtグラフィック	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
6	家計簿	日付関数、収入残高計算、月単位と年単位の管理	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
7	売上分析	シートの連携、複合グラフ、スパークライン	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
8	売上分析	レコードの条件抽出・並び替え、小計の出し方	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
9	売上分析・アンケート集計1	3D集計の方法(ピボットテーブル、ピボットグラフ)	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
10	売上分析・アンケート集計2	3D集計の方法(ピボットテーブル、ピボットグラフ)	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	

11	点数管理	順位関数、条件付き書式、分布グラフ、照合関数（INDEX・MATCH）	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
12	顧客住所録	データの管理・修正（全半角、空白文字の扱い、文字列の取り出し）	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
13	会社統計計算	年月日の引き算、数える関数、複数の条件のもとでの計算、式の結合	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
14	賃金計算	年月日関数、AND・OR関数、時刻のシリアル値、時間の計算	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
15	総合問題	切上げ、商余関数、頻度関数、シートの保護	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ビジネスワード (情報技術Ⅲ)	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		情報技術（情報技術Ⅰ）単位取得者				6・7	
実務経験のある教員による科目 該当なし							
授業の概要 文書作成ソフトウェアWordについて、決められた目的や課題に対して正確に、美しく、速く作るための基礎・応用を学びながら、繰り返しの演習を通じ、他授業や就職後に向けて実践的な技能を得ることを目指す。							
到達（成績評価A）目標 各自のレベルに合わせた指導を通じて、目標も段階的に設定する。資格取得が十分可能な学生に対しては、Word文書処理技能認定試験（サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会）の2級取得を目指す。この資格は、事務職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業では、Word文書処理技能認定試験2級の取得を目指し、総合的なビジネス文書処理ができるようになる。【DP1:知識・技能】							
単位取得（成績評価C）目標 各自のレベルに合わせた指導を通じて、目標も段階的に設定する。資格取得が十分可能な学生に対しては、Word文書処理技能認定試験（サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会）の2級取得を目指す。この資格は、事務職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業では、Word文書処理技能認定試験2級の取得を目指し、基本的なビジネス文書処理ができるようになる。【DP1:知識・技能】							
教科書 なし（必要に応じて資料を配布する）							
参考書・資料 なし							
教科書以外にかかる費用(自己負担) 特になし							
課題に対するフィードバック 課題説明と説明後の課題作成を経て、受講学生の課題を授業最後に一人一人教員が確認する。問題があればその場で指摘する。							
履修上の注意・備考・メッセージ Wordの活用に必要な知識を得ながら、実技として、美しいWord文書の例に従い、作成の練習を行う。1回の授業を前半後半に分け、前半は知識問題を中心に、後半は実技問題を中心とする。							
成績評価方法		成績評価基準					
授業中の態度(20%) 授業中と授業後の課題提出(80%) の総合評価		S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格					

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ビジネスワード (情報技術Ⅲ)	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		情報技術(情報技術Ⅰ) 単位取得者				6・7	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	知識問題1前半/実技1前半	作業環境・環境の設定と変更/ページ設定、レイアウト変更など	
	事前学習 5分	シラバス及び知識練習問題1を読んてくる	
	事後学習 60分	知識問題1とページ設定、レイアウトを復習する	
2	知識問題1後半/実技1中盤	作業環境・環境の設定と変更/ワードアートなど	
	事前学習 60分	知識練習問題1を読んてくる	
	事後学習 60分	知識問題1とページ設定、ワードアートを復習する	
3	知識問題2前半/実技1後半	書式設定/図形の編集など	
	事前学習 60分	知識練習問題2を読んてくる	
	事後学習 60分	知識問題2と図の編集を復習する	
4	知識問題2中盤/実技2前半	書式設定/ヘッダーとフッターの文字と図形編集など	
	事前学習 60分	知識練習問題2を読んてくる	
	事後学習 60分	知識問題2とヘッダーとフッターを復習する	
5	知識問題2後半/実技2中盤	書式設定/スタイルの定義と適用など	
	事前学習 60分	知識練習問題2を読んてくる	
	事後学習 60分	知識問題2とスタイルの定義と適用を復習する	
6	知識問題3/実技2後半	ファイル・ページ設定・印刷/表の編集など	
	事前学習 60分	知識練習問題3を読んてくる	
	事後学習 60分	知識問題3と表の編集を復習する	
7	知識問題4前半/実技3前半	文書編集/文章の挿入、段落と改行など	
	事前学習 60分	知識練習問題4を読んてくる	
	事後学習 60分	知識問題4と文章の挿入、段落と改行を復習する	
8	知識問題4後半/実技3中盤	文書編集/段組みと段区切りなど	
	事前学習 60分	知識練習問題4を読んてくる	
	事後学習 60分	知識問題4と段組みと段区切りを復習する	
9	知識問題5前半/実技3後半	罫線と表/SMARTArtの作成と編集など	
	事前学習 60分	知識練習問題5を読んてくる	
	事後学習 60分	知識問題5とSMARTArtの作成と編集を復習する	
10	知識問題5後半/実技4前半	罫線と表/タブとリーダーなど	
	事前学習 60分	知識練習問題5を読んてくる	
	事後学習 60分	知識問題5とタブとリーダーを復習する	

11	知識問題6/実技4中盤	オブジェクト/箇条書きなど	
	事前学習 60分	知識練習問題6を読んてくる	
	事後学習 60分	知識問題6と箇条書きを復習する	
12	知識模擬問題1と2/実技4後半	15分知識試験と解説の2回分/表の配置など	
	事前学習 60分	知識練習問題1～6を再復習する	
	事後学習 60分	知識模擬問題1と2と表の配置を復習する	
13	知識模擬問題3/実技模擬問題3	15分知識試験と解説/実技のまとめ	
	事前学習 60分	実技練習問題1～4の方法を再復習する	
	事後学習 60分	知識模擬問題3を復習する	
14	実技模擬問題1	実技問題1(90分)	
	事前学習 60分	実技練習問題1～4の方法を再復習する	
	事後学習 60分	実技問題1の内容を復習する	
15	実技模擬問題2	実技問題2(90分)	
	事前学習 60分	知識問題と実技問題の模擬問題を再復習する	
	事後学習 60分	実技問題2の内容を復習する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ビジネスパワーポイント (情報技術Ⅳ)	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		情報技術（情報技術Ⅰ）単位取得者				6・7	
実務経験のある教員による科目 該当なし							
授業の概要							
<p>プレゼンテーションソフトウェアPowerPointについて、決められた目的や課題に対して正確に、美しく、速く作るための基礎・応用を学びながら、繰り返しの演習を通じ、他授業や就職後に向けて実践的な技能を得ることを目指す。</p>							
到達（成績評価A）目標							
<p>各自のレベルに合わせた指導を通じて、目標も段階的に設定し、資格取得が十分可能な学生に対しては、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験（サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会）の上級取得を目指す。この資格は、販売・営業職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業は、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級の取得を目指し、総合的なプレゼンテーション処理ができるようになる。【DP1:知識・技能】</p>							
単位取得（成績評価C）目標							
<p>各自のレベルに合わせた指導を通じて、目標も段階的に設定し、資格取得が十分可能な学生に対しては、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験（サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会）の上級取得を目指す。この資格は、販売・営業職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業は、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級の取得を目指し、基本的なプレゼンテーション処理ができるようになる。【DP1:知識・技能】</p>							
教科書							
なし（必要に応じて資料を配布する）							
参考書・資料							
なし							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題説明と説明後の課題作成を経て、受講学生の課題を授業最後に一人一人教員が確認する。問題があればその場で指摘する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
PowerPointの活用に必要な知識を得ながら、実技として、美しいPowerPointプレゼンテーションの例に従い、資料作成の練習を行う。1回の授業を前半後半に分け、前半は知識問題を中心に、後半は実技問題を中心とする。							
成績評価方法				成績評価基準			
授業中の態度(20%) 授業中と授業後の課題提出(80%) の総合評価				<p>S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格</p>			

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ビジネスパワーポイント (情報技術Ⅳ)	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		情報技術 (情報技術Ⅰ) 単位取得者				6・7	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	知識問題1/実技1前半	作業環境・環境の設定と変更/スライドマスターの使い方など	
	事前学習 5分	シラバス及び知識練習問題1を読んでくる	
	事後学習 60分	知識練習問題1とスライドマスターを復習する	
2	知識問題2/実技1中盤	書式設定/SMARTArtグラフィックの使い方など	
	事前学習 60分	知識練習問題2を読んでくる	
	事後学習 60分	知識練習問題2とSMARTArtグラフィックを復習する	
3	知識問題3/実技1後半	スライド/アニメーションの使い方など	
	事前学習 60分	知識練習問題3を読んでくる	
	事後学習 60分	知識練習問題3とアニメーションを復習する	
4	知識問題4/実技2前半	ファイル/表の編集など	
	事前学習 60分	知識練習問題4を読んでくる	
	事後学習 60分	知識練習問題4と表の編集を復習する	
5	知識問題5/実技2中盤	編集/動作設定ボタンの使い方など	
	事前学習 60分	知識練習問題5を読んでくる	
	事後学習 60分	知識練習問題5と動作設定ボタンを復習する	
6	知識問題6/実技2後半	罫線と表/画面切り替えの使い方など	
	事前学習 60分	知識練習問題6を読んでくる	
	事後学習 60分	知識練習問題6と画面切り替えを復習する	
7	知識問題7/実技3前半	オブジェクト、図形/図の挿入など	
	事前学習 60分	知識練習問題7を読んでくる	
	事後学習 60分	知識練習問題7と図の挿入を復習する	
8	知識問題8/実技3中盤	校閲/ハイパーリンクの使い方など	
	事前学習 60分	知識練習問題8を読んでくる	
	事後学習 60分	知識練習問題8とハイパーリンクを復習する	
9	知識模擬問題1/実技3後半	15分知識試験と解説/画像の挿入など	
	事前学習 60分	知識練習問題1～8を再復習する	
	事後学習 60分	知識模擬問題1と画像の挿入を復習する	
10	知識模擬問題2/実技4前半	15分知識試験と解説/スライドマスターの複製とスライド変更など	
	事前学習 60分	知識練習問題1～8を再復習する	
	事後学習 60分	知識模擬問題2とスライドマスター複写を復習する	

11	知識模擬問題3/実技4後半	15分知識試験と解説/ワードアートの使い方など	
	事前学習 60分	知識練習問題1～8を再復習する	
	事後学習 60分	知識模擬問題3とワードアートを復習する	
12	実技模擬問題1	実技問題1(90分)	
	事前学習 60分	実技練習問題1～4の方法を再復習する	
	事後学習 60分	実技問題1の内容を復習する	
13	実技模擬問題2	実技問題2(90分)	
	事前学習 60分	実技練習問題1～4の方法を再復習する	
	事後学習 60分	実技問題2の内容を復習する	
14	実技模擬問題3	実技問題3(90分)	
	事前学習 60分	実技練習問題1～4の方法を再復習する	
	事後学習 60分	実技問題3の内容を復習する	
15	模擬試験	本試験対策	
	事前学習 60分	知識問題と実技問題の模擬問題を再復習する	
	事後学習 60分	模擬問題を復習する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
心理学	選択	共通	1年前学期	講義	2	はらしま まさゆき さくま なおと 原島 雅之・佐久間 直人	オムニバス
科目区分		履修条件				AL	
共通科目（社主事）		特になし				6, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
心とは何でしょうか。自分にとっても身近で明らかなものであるように思える一方で、考えれば考えるほど複雑で難しいもののようにも思えます。そのような対象について、心理学は100年以上にわたって科学的に解明しようと様々な試みを行ってきました。多くの先人たちがどのような工夫を行い、そしてその結果どのようなことがわかってきたのか、色々な心理学の分野における知見について紹介していきます。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 日常生活における身近な心理学的現象について、授業で学んだ知見をもとに説明することができる。【DP1：知識・技能】 「心のはたらき」における社会的機能や適応的意義について説明をすることができる。【DP1：知識・技能】 「心」を科学的に扱うということについて、基本的な説明ができるようになる【DP1：知識・技能】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 授業で学んだ心理学的知見について、具体的な例を挙げて説明することができる。【DP1：知識・技能】 「心のはたらき」について、心理学的用語を使って説明をすることができる。【DP1：知識・技能】 心理学における実験や調査的手法について、具体的な例を挙げて説明することができる【DP1：知識・技能】 							
教科書							
特になし							
参考書・資料							
毎回の授業においてプリントを配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> 授業中の私語やスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する）。 他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。 							
成績評価方法				成績評価基準			
以下の項目の総合評価とする。 学期末試験(70%) リアクションペーパーなどの課題(30%)				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格			

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
心理学	選択	共通	1年前学期	講義	2	はらしま まさゆき さくま なおと 原島 雅之・佐久間 直人	オムニバス
科目区分		履修条件				AL	
共通科目（社主事）		特になし				6, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	心理学とは	心理学という学問の概要と歴史	佐久間
	事前学習 10分	シラバスを読む	
	事後学習 10分	配布資料について復習する	
2	感覚・知覚①	ものを見る仕組みと錯視	佐久間
	事前学習 10分	心理学が扱う「心」について考えを整理しておく	
	事後学習 20分	身近にある錯視を探してみる	
3	感覚・知覚②	感覚の測定法と法則	佐久間
	事前学習 10分	対象と背景の区別や奥行き把握など「見る」ことに必要な要素を考えておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
4	学習・条件づけ①	古典的条件づけによる行動の形成	佐久間
	事前学習 10分	自分の癖や好き嫌いについて考えておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
5	学習・条件づけ②	道具的条件づけによる行動の形成	佐久間
	事前学習 10分	好き嫌いについて、古典的条件づけを用いた説明を考えておく	
	事後学習 20分	自分の癖や好き嫌いについて心理学的に説明し、修正方法を考えてみる	
6	認知・記憶	記憶の仕組みと認知	佐久間
	事前学習 10分	うっかり読み間違いをした単語を思い出し、メモしておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
7	認知・思考	論理的な推論と意思決定の法則性	佐久間
	事前学習 10分	自分が下した決定の理由や決め手について考えてみる	
	事後学習 20分	これまでに自分がした法則的な意思決定や誤謬を説明してみる	
8	動機づけ①	モチベーションとは、基本的欲求と目標の追求	原島
	事前学習 10分	自分の目標について考え、整理しておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
9	動機づけ②	目標設定と計画の立て方、自己制御	原島
	事前学習 10分	自分の目標を達成するための計画を考える	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
10	社会的認知①	他者に対する印象、バイアスとステレオタイプ	原島
	事前学習 10分	身近な他者についてのイメージを考え、整理しておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	

11	社会的認知②	自己呈示、社会的自己と自尊心	原島
	事前学習 10分	自分自身についてのイメージを考え、整理しておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
12	パーソナリティ①	性格の諸理論、性格の一貫性	原島
	事前学習 10分	自分や他者の性格について考え、整理しておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
13	パーソナリティ②	性格の測定、性格の背景	原島
	事前学習 10分	人の性格はどう調べられるか、どう形作られるかについて考えておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
14	まとめ	全体の振り返りと定期試験	原島
	事前学習 60分	これまでの学習内容を振り返り、心理学とはどのような学問か、「心のはたらき」とは何かについて、自分の考えを整理しておく	
	事後学習 30分	試験で答えられなかったところを見直し、学習を定着させる。	
15			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
異文化と世界	選択	共通	1年 後学期	講義	2	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				—	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>現在、私たちの日々の生活が外国(企業・人)との関係なしには成り立たなくなっている。このようなグローバル世界において生きる知的土台を築くため、異文化理解についての基本的な考え方、その問題点を学びつつ、国際社会の成り立ちの過去から現在を経て未来へと向かう変動の中での人々の価値観・文化の揺らぎを理解する。各種ホームページからの資料や国内・海外のテレビニュース等を利用する。授業進行は、議論の論理的構築及び話題性の両方を考慮して、柔軟に行っていくものとする。</p>							
到達(成績評価A)目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル世界の現状や文化状況の理解するための基礎力を身につけている。【DP1:知識・技術】 ・異文化理解の基本的な考え方を身につけている。【DP1:知識・技術】 ・国際社会の現在に至るまでの成り立ちの歴史について基本的に理解している。【DP1:知識・技術】 ・日常生活における異文化をめぐる問題について、関心をもち、意見を表明することができる。【DP2:思考力・判断力】 							
単位取得(成績評価C)目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル世界の現状や文化状況の理解するための基礎力を身につけている。【DP1:知識・技術】 ・異文化理解の基本的な考え方を身につけている。【DP1:知識・技術】 ・国際社会の現在に至るまでの成り立ちの歴史について基本的に理解している。【DP1:知識・技術】 							
教科書							
必要に応じてプリント等を配布する							
参考書・資料							
なし							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
ミニットペーパーは翌々週の授業時に返却する							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な発言が期待される ・遅刻厳禁 ・私語は禁止 							
成績評価方法				成績評価基準			
取組み姿勢 (30%) 提出物 (70%) の総合評価				S(100-90点):到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点):到達目標を達成している B(79-70点):到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点):単位修得目標を達成している D(59-0点):単位修得目標を達成できていない R:未受験 Z:受験資格失格			

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
異文化と世界	選択	共通	1年 後学期	講義	2	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				—	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	イントロダクション	なぜ「異文化と世界」を学ぶか	
	事前学習 5分	シラバスを読んでおく	
	事後学習 30分	授業計画の説明を再確認する	
2	日常生活とグローバル化	消費生活, 雇用, 企業	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
3	るつば、多文化主義、単一民族	米・仏・独・日における状況と経済的効率・政治的統合・文化的理念	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
4	国民国家	国民国家の神話と現在	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
5	グローバル経済と企業(1)	経済のグローバル化、多国籍企業、英語社内公用語化問題	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
6	グローバル経済と企業(2)	金融マーケット、国家主権、民主主義の空洞化	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
7	グローバル時代の家族・教育(1)	海外子女、帰国子女と家族関係	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
8	グローバル時代の家族・教育(2)	外国人教育、コミュニケーション教育、自国の価値観の再検討	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
9	ナショナリズムと現代(1)	グローバル化と対抗ナショナリズム	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
10	ナショナリズムと現代(2)	ナショナリズムの歴史とパターン	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	

11	国際秩序の歴史(1)	ウェストファリア条約、2つの大戦、冷戦、9.11テロと新興国	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
12	国際秩序の歴史(2)	2つの大戦の反省としての第2次世界大戦後の秩序	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
13	国際秩序の歴史(3)	地域統合：ヨーロッパ統合の進展と停滞、東アジアの現状	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
14	各国、各地域の歴史と現在の位置、未来へ向けて(1)	ヨーロッパ（独仏を中心に）、アメリカ、イスラム圏諸国	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
15	各国、各地域の歴史と現在の位置、未来へ向けて(2)	日本、中国、韓国、東南アジア諸国	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
教養としての経済学	選択	共通	2年前学期	講義	2	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		なし				3, 12, 15	
実務経験のある教員による科目 該当なし							
授業の概要 現代社会における経済現象について、家庭から国家財政、国際経済にいたるまで、基本的な理解をすることができるようにするための授業である。人生で遭遇する経済的問題に対処して生き抜くための基礎力をめざし、事例が多くわかりやすいテキストにより学習する。タイムリーな話題については、DVD等で追加的に学習する。							
到達（成績評価A）目標 <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における経済現象について基本的な理解をすることができる。 ・変わりつつある社会において、人生で遭遇する経済的問題に対する対処の仕方を理解することができる。 ・経済問題に対して責任感ある対処の仕方を理解し、判断することができる。 							
単位取得（成績評価C）目標 <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における経済現象について基本的な理解をすることができる。 ・変わりつつある社会において、人生で遭遇する経済的問題に対する対処の仕方を理解することができる。 ・変わりつつある社会における人生の中で遭遇する経済的課題に対する対処の仕方を理解することができる。 							
教科書 一橋大学経済学部著：『教養としての経済学－生き抜く力を培うために』 有斐閣（2013） ¥1,980							
参考書・資料 角田修一著：『概説生活経済論』 文理閣（2014） ¥2,415							
教科書以外にかかる費用(自己負担) 特になし							
課題に対するフィードバック ミニットペーパーは翌々週の授業時に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻厳禁 ・私語は禁止 							
成績評価方法				成績評価基準			
取組み姿勢 (30%) 提出物・小テスト (70%) の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格			

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
教養としての経済学	選択	共通	2年前学期	講義	2	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		なし				3, 12, 15	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	国民経済における家庭経済（1）	家庭経済の役割、消費行動決定の要因、家計と企業のつながり	/
	事前学習 5分	シラバスの該当ページを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
2	国民経済における家庭経済（2）	就業と賃金、職業選択、ライフステージ、収入、消費、貯蓄	/
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
3	税と社会保障	税の分類、社会保障制度と財政負担・人口構造	/
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
4	経済学的な考え方（1）	効率、格差、衡平	/
	事前学習 30分	テキスト(p92-100)を読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
5	経済学的な考え方（2）	需要と供給（マイクロ経済学）	/
	事前学習 30分	テキスト(p101-108)を読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
6	経済学的な考え方（3）	技術と家計（マクロ経済学）	/
	事前学習 30分	テキスト(p109-117)を読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
7	経済学的な考え方（4）	協力の科学として経済学、国際金融危機の経済学	/
	事前学習 30分	テキスト(p28-37, p118-128)を読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
8	経済学的な考え方（5）	TPPの政治経済学	/
	事前学習 30分	テキスト(p16-27)を読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
9	経済学的な考え方（6）	為替レートと外国為替取引	/
	事前学習 30分	テキスト(p138-145)を読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
10	経済学的な考え方（7）	公正で自由な競争	/
	事前学習 30分	テキスト(p154-161)を読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	

11	経済学的な考え方（8）	日本の財政、増税と国債	
	事前学習 30分	テキスト (p44-53, p162-169) を読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
12	経済学的な考え方（9）	大学進学率と経済学、子育て費用	
	事前学習 30分	テキスト (p55-64) を読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
13	経済学的な考え方（10）	医療制度と経済学	
	事前学習 30分	テキスト (p65-75) を読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
14	経済学的な考え方（11）	廃棄物の経済学、イノベーション	
	事前学習 30分	テキスト (p76-90) を読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
15			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
日本国憲法と法律	選択	共通	2年前学期	講義	2	ともよせ たかのぶ 友寄 隆信	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				—	
実務経験のある教員による科目							
憲法に定める財政民主主義に関連し、国家財政の会計検査、諸外国との意見交換のための国際会議への出席、国会の予算委員会、決算委員会などでの予算執行等に関する議員質問への答弁などの経験を踏まえ我が国における憲法の運用実態を学ぶことができる。							
授業の概要							
憲法の基本的枠組み（基本的人権、統治機構）を、出来るだけ身近な事例を取り上げて説明することで、憲法とは何かを理解する。							
到達（成績評価A）目標							
憲法の基本を学ぶことにより、政治・社会で起きる様々な出来事に関して、自らの意見をまとめ、表明できるようになる。憲法に関する問題の意味や資料について十分に理解し、それを踏まえてある程度の分量に達する文章を論理的に作成することができる。							
単位取得（成績評価C）目標							
憲法の基本を学ぶことにより、政治・社会で起きる様々な出来事に関して、自らの意見をまとめ、表明できるようになる。							
教科書							
木山泰嗣：『マンガでわかる日本国憲法』 池田書店（最新版） ¥1,458							
参考書・資料							
池上彰：『超訳 日本国憲法』 新潮新書（2015） ¥842 伊藤真：『伊藤真の日本一わかりやすい憲法入門』 中経出版（最新版） ¥1,620 石ノ森章太郎：『改訂版 石ノ森章太郎のまんが日本国憲法』 講談社（最新版） ¥1,404							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
提出されたレポートにコメントを加え改善点などを指導する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
授業中、前後の質問大歓迎。							
成績評価方法				成績評価基準			
定期試験(70%)、授業態度(30%)の総合評価。				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格			

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認してください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
日本国憲法と法律	選択	共通	2年前学期	講義	2	ともよせ たかのぶ 友寄 隆信	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				—	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	憲法の歴史	憲法は何のために有るのか、近代憲法の誕生、日本国憲法の誕生	/
	事前学習 5分	教科書該当箇所(P16～19、P24～32)を読むこと	
	事後学習 20分	参考書の該当箇所での復習	
2	憲法の基本原理	憲法の三大原理、国民権と象徴天皇	/
	事前学習 40分	教科書(P34～62)を読むこと	
	事後学習 20分	参考書の該当箇所での復習	
3	平和主義	憲法9条の意義、憲法9条と自衛隊・日米安保条約	/
	事前学習 30分	教科書該当箇所(P64～86)を読むこと	
	事後学習 20分	参考書の該当箇所での復習	
4	基本的人権の原理	人権の意味と特徴、公共の福祉による制限、個人の尊重	/
	事前学習 30分	教科書該当箇所(P88～97)を読むこと	
	事後学習 20分	参考書の該当箇所での復習	
5	法の下での平等	法の下での平等の意味、一票の格差、男女の平等	/
	事前学習 5分	教科書該当箇所(P98, 99)を読むこと	
	事後学習 20分	参考書の該当箇所での復習	
6	思想信教の自由	政教分離、信教の自由と公共の福祉	/
	事前学習 15分	教科書該当箇所(P104～107)を読むこと	
	事後学習 20分	参考書の該当箇所での復習	
7	表現の自由	報道の自由、有害図書指定、プライバシー権	/
	事前学習 10分	教科書該当箇所(P102, 103, 108, 109)を読むこと	
	事後学習 20分	参考書の該当箇所での復習	
8	経済的自由 財産権の保障・人身の自由	職業選択の自由、営業の自由とその規制 犯罪捜査における適正手続の保障、自白と証拠能力	/
	事前学習 25分	教科書該当箇所(P70～78、110, 111)を読むこと	
	事後学習 25分	参考書の該当箇所での復習、配付プリントを復習	
9	社会権 参政権	生存権、教育を受ける権利、労働権	/
	事前学習 25分	教科書該当箇所(P114～121)、配付プリントを読むこと	
	事後学習 25分	参考書の該当箇所での復習、配付プリントを復習	
10	国会	権力分立の原理、国権の最高機関	/
	事前学習 30分	教科書該当箇所(P126～145)を読むこと	
	事後学習 15分	池上参考書の該当箇所を読むこと	

11	内閣	議院内閣制と衆議院解散	
	事前学習 30分	教科書該当箇所(P146～153)を読むこと	
	事後学習 15分	池上参考書の該当箇所を読むこと	
12	裁判所	司法権の独立、違憲審査制、裁判員制度	
	事前学習 25分	教科書該当箇所(P154～165)を読むこと	
	事後学習 15分	池上参考書の該当箇所を読むこと	
13	地方自治 財政	地方自治のしくみ、財政民主主義	
	事前学習 25分	教科書該当箇所(P166～171)を読むこと	
	事後学習 15分	池上参考書の該当箇所を読むこと	
14	まとめ	最高法規、憲法改正	
	事前学習 25分	教科書該当箇所(P174～189)を読むこと	
	事後学習 90分	配付プリントをよく読んで理解すること	
15			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ボランティア論	選択	共通	1年 前学期	講義	2	なかの 中野 みやこ 都	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				11, 17	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>ボランティアの理念、目的、原則、意義、現状、問題点を学ぶとともに、履修生がボランティア活動に参加する機会を作り、参加後にはディスカッションの場を設けボランティア活動に対する理解を深める。また、社会的な活動を通して社会に貢献すること、コミュニケーション能力の向上及び自己実現に向けての機会を得ることとはどのようなことなのかについて共に考える。</p>							
到達（成績評価A）目標							
<p>講義で学ぶ理論とボランティア活動の実践を通して得られた知識及び技術を合わせて、社会貢献することを目標とする。</p> <p>1. ボランティアの理念、目的、基本原則を踏まえて自分で興味のあるボランティア活動に参加し、活動の意義について説明できる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 【DP3：主体性・多様性・協働性】</p> <p>2. ボランティア活動を通じて自己、他者を知ることができ、コミュニケーション能力の向上及び自己実現の機会となることを理解し、活動の場を広げることができる。【DP3：主体性・多様性・協働性】</p>							
単位取得（成績評価C）目標							
<p>講義で学ぶ理論とボランティア活動の実践を通して得られた知識及び技術を合わせて、社会貢献することを目標とする。</p> <p>1. ボランティアの理念、目的、基本原則を踏まえて自分で興味のあるボランティア活動に参加し、活動の意義について考えることができる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 【DP3：主体性・多様性・協働性】</p> <p>2. ボランティア活動を通じて自己、他者を知り、活動の場を広げることができる。【DP3：主体性・多様性・協働性】</p>							
教科書							
授業中に資料・プリントを配布する。							
参考書・資料							
<p>桜井政成、津止正敏編著：『ボランティア教育の新天地』 ミネルヴァ書房 ¥3,100</p> <p>岡本榮一、菅井直也他編：『学生のためのボランティア論』 社会福祉法人大阪ボランティア協会 ¥1,980</p>							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<p>1. 講義を受けるだけでなく、日常生活の中でボランティア活動の実践に取り組む。</p> <p>2. 授業中のスマートフォンの使用を禁止する。</p> <p>3. パソコン室では音楽や動画、ゲームの操作及び授業内容に関連のないインターネットの視聴を禁止する。</p>							
成績評価方法				成績評価基準			
<p>定期試験 (40%)</p> <p>ボランティア体験の活動報告書・レポート (40%)</p> <p>受講態度 (20%)</p> <p>の総合評価</p>				<p>S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している</p> <p>A(89-80点)：到達目標を達成している</p> <p>B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している</p> <p>C(69-60点)：単位修得目標を達成している</p> <p>D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない</p> <p>R：未受験</p> <p>Z：受験資格失格</p>			

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ボランティア論	選択	共通	1年前学期	講義	2	なかの 中野 みやこ 都	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				11, 17	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ボランティア活動について（1）	ボランティアの理念・目的	
	事前学習 15分	シラバスを読み、学習内容を把握する。	
	事後学習 30分	ボランティアの理念と目的について確認する。	
2	ボランティア活動について（2）	ボランティア活動の基本原則	
	事前学習 15分	ボランティア活動に参加するにはどのような姿勢で臨めばよいかを考える。	
	事後学習 30分	ボランティア活動の基本原則を確認する。	
3	ボランティア活動について（3）	実際のボランティア活動	
	事前学習 15分	ボランティア活動にはどのような種類があるか考える。	
	事後学習 30分	ボランティア活動の種類を理解する。	
4	ボランティア活動について（4）	ボランティア参加の意義	
	事前学習 15分	なぜボランティア活動に参加するのかについて考える。	
	事後学習 30分	学習した内容をボランティアの場でどのように活かせるか考える。	
5	ボランティア活動について（5）	ボランティア活動と公共	
	事前学習 15分	自分ができる地域貢献について考える。	
	事後学習 30分	社会参加としてのボランティア活動を捉える。	
6	ボランティア活動について（6）	ボランティア活動とNPO法人（特定非営利活動）	
	事前学習 15分	NPO法人の意味を調べておく。	
	事後学習 30分	NPO法人の活動について関心を持つ。	
7	ボランティア活動について（7）	NPO法人の種類とその具体的な活動	
	事前学習 15分	自分が興味ある分野のNPO法人の活動について情報を得る。	
	事後学習 30分	NPO法人の種類とその具体的な活動について理解を深める。	
8	ボランティア活動について（8）	ボランティアセンターの役割と機能	
	事前学習 15分	居住地のボランティアセンター設置の有無を知る。	
	事後学習 60分	居住地のボランティアセンターの活動内容をまとめる。	
9	ボランティア活動について（9）	自分にあったボランティア活動とは	
	事前学習 30分	自分がどんなボランティア活動ができるか、したいかを考える。	
	事後学習 60分	自分にあったボランティア活動を探す。	
10	ボランティア活動について（10）	ボランティアの心構え	
	事前学習 15分	ボランティア活動に参加するにはどのような心構えで臨めばよいかを考える。	
	事後学習 30分	学習した内容をボランティアの場でどのように活かせるか考える。	

11	ボランティア活動の実践（１）	国際ボランティア活動とは	
	事前学習 15分	国際ボランティア活動について関心を持つ。	
	事後学習 30分	国際ボランティア活動について情報を収集する。	
12	ボランティア活動の実践（２）	JICA国際協力出前講座	
	事前学習 30分	講師の派遣国について把握して出前講座に臨む。	
	事後学習 60分	出前講座内容をまとめる。	
13	ボランティア活動の実践（３）	学外ボランティア活動の実践	
	事前学習 30分	参加するボランティア活動について内容を把握する。	
	事後学習 60分	参加したボランティア活動内容をまとめ、レポートを完成させる。	
14	まとめ	学外ボランティア活動の報告会と定期試験	
	事前学習 180分	ボランティア活動内容についてまとめる。前学期全体の学習内容を振り返る。	
	事後学習 60分	報告会の内容を振り返り、自分が関心興味あるボランティア活動について理解を深める。試験で出来なかったところを見直し、学習を定着させる。	
15			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
キャリア形成 I	卒業必修	共通	1年前学期	演習	1	おだじま ゆみこ 小田島 祐美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				15	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>自らが社会に必要とされる人財になるには、社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力や社会人・企業人として自律していける能力を身に付ける必要がある。そのために必要な心構えやマナー、身だしなみ、言葉遣いを学ぶ。また、就職活動の流れ、基礎知識、自己分析、企業研究の方法、履歴書の書き方を学び、就職活動に必要な事項の習得を行う。</p>							
到達（成績評価A）目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分のキャリアデザインについて、具体的に示すことができる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 2. 就職活動を行うにあたり知識と心得を身につけている。【DP1：知識・技術】 3. 自分を分析し、適切な自己表現ができる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 4. 就職活動に必要な企業の情報を目的に応じて得ることができる。【DP1：知識・技術】 5. 就職活動に必要な履歴書を適切に作成できる。【DP1：知識・技術】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分のキャリアデザインについて、示すことができる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 2. 就職活動を行うにあたり基本的な知識と心得を身につけている。【DP1：知識・技術】 3. 自分を知り、自己表現ができる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 4. 企業研究の方法を説明することができる。【DP1：知識・技術】 5. 就職活動に必要な履歴書を作成できる。【DP1：知識・技術】 							
教科書							
『ユニキャリアマガジン(大学生の就活編)』(株)ディスコ(最新版) ¥1,287							
参考書・資料							
授業内に適宜指示、プリントで配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・やむを得ず欠席した場合は、次回までに連絡事項や提出物について聞きに来ること。 ・体調不良以外の途中退室禁止、私語禁止、スマートフォン使用禁止。 ・進行の都合により、内容が前後することがある。 ・セミナーは制服着用のこと。 							
成績評価方法				成績評価基準			
受講態度(50%) 提出物(50%) の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格			

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
キャリア形成 I	卒業必修	共通	1年前学期	演習	1	おだじま ゆみこ 小田島 祐美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				15	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ガイダンス	授業の目的、内容、今後の予定、キャリア形成・キャリアデザインとは	/
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる。	
	事後学習 10分	自分のキャリアデザインについて考える。	
2	就職活動の流れ・自己分析	就職活動の流れ、自己分析、セミナーの案内	/
	事前学習 10分	教科書第1章「自分の魅力を見つけよう！」を読んでくる。	
	事後学習 10分	自己分析方法について復習する。	
3	キャリアデザイン	セミナー(1) (生活設計について) (公) 生命保険文化センター	/
	事前学習 10分	将来の生活設計について考えてくる。	
	事後学習 10分	将来の生活設計について具体的に考える。	
4	自己分析と自己PR1	自分史の作成と自己分析	/
	事前学習 10分	教科書第1章を読んでくる。	
	事後学習 20分	自分史、長所、短所についてのシートを仕上げる。	
5	自己分析と自己PR2	自己PRの作成 (自己分析からアピールポイントの探求) セミナーの案内	/
	事前学習 10分	教科書第1章「自分の魅力を見つけよう！」を読んでくる。	
	事後学習 20分	自己PRシートを仕上げる。	
6	業界・企業研究1	セミナー(2) (企業研究、業界と業種) (株) マイナビ	/
	事前学習 10分	教科書第3章「企業・職業のことを勉強しよう！」を読んでくる。	
	事後学習 15分	セミナーの内容を復習する。	
7	企業研究2	企業研究、業界と業種、セミナーの案内	/
	事前学習 10分	教科書第3章「企業・職業のことを勉強しよう！」を読んでくる。	
	事後学習 20分	企業研究シートを仕上げる。	
8	就職活動のマナー2	就職活動のマナーについて	/
	事前学習 10分	教科書第2章「マナーを身に付けよう！」を読んでくる。	
	事後学習 15分	マナーについて復習する。	
9	履歴書の作成1	履歴書の書き方の説明、履歴書の作成	/
	事前学習 10分	教科書第4章「アプローチを開始しよう！」を読んでくる。	
	事後学習 15分	履歴書の表面、裏面を書く。	
10	履歴書の作成2	履歴書の書き方の説明、履歴書の作成	/
	事前学習 10分	教科書第4章「アプローチを開始しよう！」を読んでくる。	
	事後学習 15分	履歴書の表面、裏面を書く。	

11	キャリア支援室の使い方	キャリア支援室の使い方、セミナーの案内	
	事前学習 10分	教科書第3章「企業・職業のことを勉強しよう！」を読んでくる。	
	事後学習 15分	キャリア支援室を実際に利用する。	
12	卒業生セミナー	卒業生セミナー（体験談の聴講）	
	事前学習 10分	希望職種の卒業生に対しての質問事項を考えてくる。	
	事後学習 10分	希望職種について考える。	
13	履歴書の作成3	履歴書提出	
	事前学習 15分	履歴書の表面、裏面を仕上げてくる。	
	事後学習 10分	履歴書を完成させ、提出期限まで提出する	
14	マナー まとめ	セミナー（3）（マナーについて） まとめ	
	事前学習 10分	教養基礎 I の課題の対策をしてくる	
	事後学習 15分	就職活動の流れについて復習する。	
15			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
キャリア形成Ⅱ	選択	共通	1年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		キャリア形成Ⅰを履修していること				3, 6・7, 17	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
就職活動の流れに沿い、スケジュール確認、身だしなみ、立ち居振る舞いを含めた面接対応及び実践練習を行う。時事問題、時候の挨拶、敬語等会社訪問や面接の際に好感をもたれる言葉遣いやマナーも習得する。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 身につけた知識や技能が必要な場面で最大限発揮できるようになる。【DP1：知識・技能】 実際の面接での確な対応が十分できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 就職活動において、適切な時期に適切な行動を自発的に行えるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 身につけた知識や技能が必要な場面で基本的に発揮できるようになる。【DP1：知識・技能】 相手の求めに応じて実際の面接での確な対応ができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 就職活動において、適切な時期に適切な行動を心がけて実行することができる。【DP3：主体性・多様性・協働】 							
教科書							
『ユニキャリアマガジン(大学生の就活編)』(株)ディスコ(キャリア形成Ⅰで使用したテキスト) ¥1,263							
参考書・資料							
授業内に適宜指示する							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
ミニットペーパーは翌週の授業時に返却する。 課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> 新聞やニュースなどを日常的に見聞きし、政治・経済を中心としたニュースに関心を持つこと。 自らの今後の生き方を前向きに捉え、就職活動を主体的に行う心構えを持つこと。 やむを得ず欠席した場合は、授業内容と連絡事項を必ず聞きに来ること。 授業の進捗やセミナーによっては、スケジュールを変更することがある。 							
成績評価方法				成績評価基準			
受講態度(50%) 提出物(50%) の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格			

*授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
キャリア形成Ⅱ	選択	共通	1年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		キャリア形成Ⅰを履修していること				3, 6・7, 17	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ガイダンス	授業の目的、内容、今後の予定、就職活動のスケジュール	/
	事前学習 5分	シラバスをよく読んでくる	
	事後学習 10分	自分の就職活動のスケジュールを考える	
2	就職活動にむけて（1）	就職セミナー(1) 就活メイク	/
	事前学習 5分	就活メイクについて調べる	
	事後学習 10分	就職セミナー(1)で学んだことをまとめる	
3	就職活動にむけて（2）	就職セミナー(2) 「志望動機」「学生時代力を入れたこと」の書き方	/
	事前学習 10分	履歴書の書き方を復讐する	
	事後学習 20分	就職セミナー(2)で学んだことをまとめる	
4	就職活動にむけて（3）	履歴書裏面の書き方・SPI試験について	/
	事前学習 10分	履歴書裏面の書き方・SPI試験の準備をする	
	事後学習 20分	履歴書裏面を仕上げる・試験の結果から今後の対策を考える	
5	業界・企業研究（1）	企業とは、業界と職種、企業分析ノート作成	/
	事前学習 10分	教科書第3章を読んでくる	
	事後学習 10分	企業研究シート(1)を仕上げる	
6	業界・企業研究（2）	学内企業研究会の事前学習	/
	事前学習 10分	教科書第3章を読んでくる	
	事後学習 10分	企業研究シート(2)(3)を仕上げる	
7	業界・企業研究（3）	就職セミナー(3) 学内企業研究会参加	/
	事前学習 10分	訪問順序について確認する	
	事後学習 20分	就職セミナー(3)で学んだことをまとめる	
8	履歴書の作成	履歴書の作成	/
	事前学習 10分	教科書第4章を読んでくる	
	事後学習 30分	履歴書を清書し提出する	
9	面接試験の研究（1）	面接試験の形式と心得・自己PRの見直し	/
	事前学習 10分	面接についてP94～97を読んでくる	
	事後学習 30分	自己PRシートを完成させ覚えてくる	
10	面接試験の研究（2）	就職セミナー(4) 「面接の基本」	/
	事前学習 10分	面接についてP98～100を読んでくる	
	事後学習 20分	就職セミナー(4)で学んだことをまとめる	

11	模擬面接の実際（1）	模擬面接の準備、模擬面接のロールプレイ	
	事前学習 10分	面接のロールプレイについて資料を読む	
	事後学習 10分	模擬面接の受け方をまとめる	
12	模擬面接の実際（2）	模擬面接(1)	
	事前学習 10分	模擬面接の準備をする	
	事後学習 10分	模擬面接の報告書を書く	
13	模擬面接の実際（3）	模擬面接(2)	
	事前学習 10分	反省点を生かした模擬面接の準備をする	
	事後学習 10分	模擬面接の報告書を書く	
14	模擬面接の実際（4）	模擬面接の反省と対策	
	事前学習 10分	模擬面接を振り返る	
	事後学習 20分	模擬面接の対策をまとめる	
15	お礼状の書き方、登録	お礼状の書き方、登録（ハローワーク）	
	事前学習 10分	教科書第4章を読んでくる	
	事後学習 10分	添削されたお礼状を清書する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ビジネスマナー (秘書技能)	選択	共通	1年 前学期	講義	2	おだしま ゆみこ 小田島 祐美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		教科書購入者				14, 16	
実務経験のある教員による科目 該当なし							
授業の概要							
就職活動において、話し言葉や礼儀作法、話し相手へのマナーなどが評価される。秘書検定は、社会人となるための必要な知識を備えていることの証明として有効な資格である。秘書検定は、5つの章（マナー・接遇、技能、一般知識、必要とされる資質、職務知識）から成り、出題される。授業では、章ごとに説明を行い、例題や過去問題に取り組む。各章ごとに振り返りの小テストを行う。第12、13回目の授業では、模擬試験を実施し、その時点での実力を判定し、今後の各自の検定試験対策を行う。							
到達（成績評価A）目標							
秘書検定2級に合格することを目標とする。 1. マナー・接遇についての知識を修得し、行うことができる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 2. 技能についての知識を修得し、行うことができる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 3. 一般知識についての知識を修得し、説明できる。【DP1：知識・技術】 4. 必要とされる資質を行うことができる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 5. 職務知識を修得し、行うことができる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】							
単位取得（成績評価C）目標							
秘書検定3級に合格することを目標とする。 1. マナー・接遇についての知識を修得し、行うことができる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 2. 技能についての知識を修得し、行うことができる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 3. 一般知識についての知識を修得し、説明できる。【DP1：知識・技術】 4. 必要とされる資質を行うことができる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 5. 職務知識を修得し、行うことができる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】							
教科書							
西村この美：『現役審査委員が教える秘書検定2級・3級テキスト&問題集』 成美堂出版（最新版） ¥1,210							
参考書・資料							
授業内に適宜指示、プリントで配布 実務技能検定協会編：『秘書検定2級 2020年度版実問題集』 早稲田教育出版 ¥1,320 実務技能検定協会編：『秘書検定3級 2020年度版実問題集』 早稲田教育出版 ¥1,320							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
小テストは、採点ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・体調不良以外の途中退室禁止、私語禁止、スマートフォン使用禁止。 ・進行の都合により、内容が前後することがある。 ・秘書検定を受験予定者は、さらに参考書資料欄の過去問題集を揃え、取り組むこと。 							
成績評価方法				成績評価基準			
定期試験(50%)、 模擬試験演習(10%)、 小テスト(30%)、 受講態度(10%)の総合評価。				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格			

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ビジネスマナー (秘書技能)	選択	共通	1年 前学期	講義	2	おだしま ゆみこ 小田島 祐美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		教科書購入者				14, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ガイダンス 必要とされる資質1	秘書技能検定について 秘書としての心構え 求められる人柄 機密保持	
	事前学習 10分	シラバス、第4章「必要とされる資質」の授業内容の該当ページを読んでくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする	
2	必要とされる資質2 職務知識1	求められる能力 秘書の役割と機能	
	事前学習 10分	第4章「必要とされる資質」 第5章「職務知識」の授業内容の該当ページを読んでくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
3	職務知識2	秘書の業務	
	事前学習 10分	第5章「職務知識」の授業内容の該当ページを読んでくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
4	一般知識	カタカナ用語・略語 企業の基礎知識 経営管理の知識 人事・労務、マーケティングの知識 企業会計・財務・税務の知識	
	事前学習 10分	第3章「一般知識」を読んでくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
5	マナー・接遇1	敬語 接遇用語 人間関係と話し方・聞き方・断り方	
	事前学習 10分	第1章「マナー・接遇」の授業内容の該当ページを読んでくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
6	マナー・接遇2	指示の受け方 報告の仕方 依頼・説得の仕方	
	事前学習 10分	第1章「マナー・接遇」の授業内容の該当ページを読んでくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
7	マナー・接遇3	忠告の仕方・受け方 電話応対 来客応対	
	事前学習 10分	第1章「マナー・接遇」の授業内容の該当ページを読んでくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
8	マナー・接遇4	慶事・パーティーのマナー 弔事のマナー 贈答・見舞いのマナー	
	事前学習 10分	第1章「マナー・接遇」の授業内容の該当ページを読んでくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
9	技能1	会議の知識 社内文書 社外文書 社交文書	
	事前学習 10分	第2章「技能」の授業内容の該当ページを読んでくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
10	技能2	受信文書の取り扱い 「秘」扱い文書の取り扱い 郵便の知識	
	事前学習 10分	第2章「技能」の授業内容の該当ページを読んでくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	

11	技能3	ファイリング 資料の整理と管理 スケジュール管理 オフィスのレイアウトと整理	
	事前学習 10分 事後学習 20分	第2章「技能」の授業内容の該当ページを読んでくる。 授業内容と例題の復習をする。	
12	模擬試験1	3級模擬試験演習	
	事前学習 10分 事後学習 20分	第2章「技能」の授業内容の該当ページを読んでくる。 授業内容と例題の復習をする。	
13	模擬試験2	2級模擬試験演習	
	事前学習 60分 事後学習 30分	教科書全体を読み、苦手分野の復習をしてくる。 模擬試験の自己採点をする。	
14	まとめ、定期試験	模擬試験演習解答、定期試験	
	事前学習 240分 事後学習 60分	学習内容を振り返り、定期試験対策を行う。 試験でできなかったところを見直し、秘書検定に向けて過去問題に取り組む。	
15			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
運動と健康	卒業必修	共通	1年 後学期	実技 講義	1	さとう ひさの 佐藤 久乃	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				6・7,9,11,12	
実務経験のある教員による科目							
長年にわたって高校での体育教師をしていることから経験を活かして、運動が人々の健康、維持増進に欠かせない役割を果たしていることから運動の大切さ、楽しさを伝えます。							
授業の概要							
様々な運動を通じてその大切さ、楽しさを知る。自分の体について知り、どのようにしたら健康を保持増進できるかを考える。そして、どのような運動をしたらより効果的かを考え、実践できるようにする。また、人生100年時代における健康寿命を延ばすために必要となる運動について知識・技術を身につける。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 運動を取り入れた健康づくりの基本を理解し、生涯体育を意識し日常生活で実践することができるようになる。【知識・技能】 エアロビクスの技能を学び、グループの皆と協働して豊かな表現力をもって独創性のあるダンスを表現する。【思考力・判断力・表現力】 【主体性・多様性・協働性】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 運動を取り入れた健康づくりの基本を理解し、日常生活で実践することができるようになる。【知識・技能】 エアロビクスの技能を学び、グループで創作したダンスを表現する。【思考力・判断力・表現力】 【主体性・多様性・協働性】 							
教科書							
なし							
参考書・資料							
必要に応じてプリントを配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
特になし							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> 欠席、遅刻をしないように体調管理をきちんとすること。 髪は邪魔にならないようにまとめる。 							
成績評価方法				成績評価基準			
定期試験(70%) 取り組み姿勢(30%) の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格			

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
運動と健康	卒業必修	共通	1年 後学期	実技 講義	1	さとう ひさの 佐藤 久乃	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				6・7,9,11,12	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ガイダンス、ストレッチ	授業の進め方、内容説明、ストレッチ	/
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
2	体づくり運動、エアロビクス(1)	ストレッチ、グループゲーム、基本ステップ	/
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
3	体づくり運動、エアロビクス(2)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習(1)	/
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
4	体づくり運動、エアロビクス(3)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習(2)	/
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
5	体づくり運動、エアロビクス(4)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習(3)	/
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
6	体づくり運動、エアロビクス(5)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習(4)	/
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
7	体づくり運動、エアロビクス(6)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習(5)	/
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
8	体づくり運動、エアロビクス(7)	ストレッチ、筋力トレーニング、グループでのルーティーンの練習(1)	/
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
9	体づくり運動、エアロビクス(8)	ストレッチ、筋力トレーニング、グループでのルーティーンの練習(2)	/
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
10	体づくり運動、エアロビクス(9)	ストレッチ、グループでのルーティーンの練習(1)	/
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	

11	体づくり運動、エアロビクス(10)	ストレッチ、グループでのルーティーンの練習(2)	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
12	体づくり運動、エアロビクス(11)	ストレッチ、グループでのルーティーンの練習(3)	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
13	体づくり運動、エアロビクス(12)	プレゼンテーション(1)	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
14	体づくり運動、エアロビクス(13)	プレゼンテーション(2)	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
15	体づくり運動、人体解剖生理の雑学	グループゲーム、体のクイズ	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
標準英語スキルズ (英語コミュニケーションⅠ)	卒業必修	共通	1年 後学期	演習	1	わたなべ じゅん 渡辺 淳 りちやーど おすてん Richard S Austen	クラス 分け
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				6・7, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
習熟度別の2クラス編成とし、リスニング・スピーキングと文法・リーディングの授業を交互に行う。リスニング・スピーキングの授業では、ネイティブスピーカーと話すことにより英語を楽しみ、異文化を知りつつ、「使える英語」を学ぶ。履修者の状況に対応した課題を設定する。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 英語基礎力の定着に加えて、英語を使うことに喜びと自信を持てるようになる。【DP1:知識・技術】 世界の国々における生活や社会のさまざまな話題となることについて、英語で理解するのに必要な総合的な能力を身につけることができる。【DP1:知識・技術】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 英語基礎力の定着に加えて、英語を使うことに喜びと自信を持てるようになる。【DP1:知識・技術】 世界の国々における生活のさまざまな話題となることについて、英語で理解するのに必要な基礎的な能力を身につけることができる。【DP1:知識・技術】 							
教科書							
大坂 四郎：『First Steps to English Grammar』 南雲堂（2006）¥2,090 英語基礎演習と同じ必要に応じてプリントを配付する							
参考書・資料							
なし							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
<ul style="list-style-type: none"> 毎回課題を与え、板書を利用しつつ、解説する。 読解課題は添削ののち、各自に返却する。 							
履修上の注意・備考・メッセージ							
①毎回課題を出すので、まじめに取り組むこと。 ②積極的な授業参加を特に求める。							
成績評価方法				成績評価基準			
取組姿勢(25%) 小テスト(35%) 定期試験(40%) の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格			

*授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
標準英語スキルズ (英語コミュニケーションⅠ)	卒業必修	共通	1年 後学期	演習	1	渡辺 淳 りちやーど おすてん Richard S. Austen	クラス 分け
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				6・7,16	

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	イントロダクション	授業についての説明	
	事前学習 5分	シラバスの該当ページを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	
2	食べ物・飲み物	リスニング・スピーキング(1)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	
3	天候	文法・リーディング・ライティング(1)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	
4	趣味	リスニング・スピーキング(2)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	
5	健康・病気	文法・リーディング・ライティング(2)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	
6	音楽	リスニング・スピーキング(3)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	
7	職業	文法・リーディング・ライティング(3)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	
8	家族	リスニング・スピーキング(4)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	
9	オリンピック	文法・リーディング・ライティング(4)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	
10	動物とペット	リスニング・スピーキング(5)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	

11	犯罪	文法・リーディング・ライティング(5)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	
12	気持ち	リスニング・スピーキング(6)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	
13	マス・メディア	文法・リーディング・ライティング(6)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	
14	有名人、映画スター	リスニング・スピーキング(7)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	
15	天災・人災	文法・リーディング・ライティング(7)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
英語コミュニケーションⅡ	選択	共通	2年前学期	演習	1	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
eラーニング利用により受講者各々のレベルによって、A1、A2、B1の3つのコースに分割し、個人の意志と努力により、最高でTOEICの740点まで目指すことができる。課題は、写真描写問題・応答問題・会話問題・文法語彙問題・読解問題からなり、仕事・生活における表現の学習を深めていく。eラーニングという学習方法に慣れ親しむ。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> TOEIC の比較的平易な問題を十分に解けることができるようになる。 一つのレベルの全てのweb 課題に合格し、内容を理解する。 eラーニングという学習方法に十分に慣れる。 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> TOEIC Bridge のレベルを習得する。 TOEIC の比較的平易な問題を解けることができるようになる。 eラーニングという学習方法に十分に慣れる。 							
教科書							
eラーニングで使用するWEB教材が事実上の教科書となる。eラーニングのためにニュートン社に対するソフトウェア使用料が必要となる（下記参照）。							
参考書・資料							
プリントを必要に応じて配布する。							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
3,160円(eラーニング利用料)+300円(決済手数料)							
課題に対するフィードバック							
Web課題の達成状況についてweb上でコメントを返す。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> 私語厳禁。 辞典の持参が必要。 eラーニングによる積極的な予習復習(毎日約10分) が必要となる。 							
成績評価方法				成績評価基準			
課題web提出(30%) 小テスト (30%) 定期試験 (40%) の総合 評価。取組姿勢によっては5%の範囲で減 点あり。				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格			

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
英語コミュニケーションⅡ	選択	共通	2年前学期	演習	1	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	イントロダクション	eラーニング及び機器使用の仕方等についての説明	
	事前学習 5分	シラバスの該当ページを読む	
	事後学習 30分	テキストの指定されたページを読む	
2	レベル決定	レベルチェックテスト	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	テキストの指定されたページを読む	
3	写真描写描写問題(1)	Step 1-5	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	
4	写真描写描写問題(2)	Step 6-10	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	
5	応答問題(1)	Step 1-5	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	
6	応答問題(2)	Step 6-10	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	
7	文法・語彙問題(1)	Step 1-4	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	
8	文法・語彙問題(2)	Step 5-7	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	
9	文法・語彙問題(3)	Step 8-10	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	
10	会話問題(1)	Step 1-4	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	

11	会話問題(2)	Step 5-7	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	
12	会話問題(3)	Step 8-10	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	
13	読解問題	Step 1-4	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	
14	まとめ	全体の振り返りと定期試験	
	事前学習 30分	全体の学習内容を振り返り、足りなかったことを確認する。	
	事後学習 15分	今後の英語学習について考える	
15			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
英会話	選択	共通	1,2年前学期	演習	1	リチャード・オステン Richard S Austen	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				8, 9, 16	
実務経験のある教員による科目							
なし							
授業の概要							
現在の日本社会で、英語のニーズが増えつつある。この授業の目標は、様々な場面において、履修者が自信をもって、怖がらずに、英語でコミュニケーションを取れるようになることである。授業ごとに英語を実際に話せるための、役に立つテーマについて学ぶ。授業内容は、スピーキングとコミュニケーション(40%)、リスニング(20%)とリーディング(20%)で身につける。							
到達(成績評価A)目標							
<ul style="list-style-type: none"> 最初の授業より会話で実際に使える語彙とフレーズを増やす(口頭テスト)。【DP1:知識・技能】 授業のテーマごとに、ある程度自信をもって、コミュニケーションを取れるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3:主体性・多様性・協働性】 いろいろなトピックにおいて自分の好みと意見を述べるができる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3:主体性・多様性・協働性】 							
到達(成績評価C)目標							
<ul style="list-style-type: none"> 最初の授業より理解できる語彙とフレーズを増やすことができる(筆記テスト)。【DP1:知識・技能】 毎回の宿題に積極的に取り組み授業では会話を楽しむことができる。【DP2:思考力・判断力・表現力】【DP3:主体性・多様性・協働性】 自己紹介ができる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力】 							
教科書							
なし							
参考書・資料							
必要に応じてプリントを配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
なし							
課題に対するフィードバック							
課題をチェックし、コメントや修正を付け、返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席はしないように体調管理をきちんとすること。 欠席の場合は、登校した日に必ず、研究室に連絡を取ること。 意欲的に授業に取り組むこと ― 英語で話すことをチャレンジする気持ちで授業に参加すること。 							
成績評価方法				成績評価基準			
定期試験 - 口頭・筆記(80%)、授業態度(20%)の総合評価。				S(100-90点): 到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点): 到達目標を達成している B(79-70点): 到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点): 単位修得目標を達成している D(59-0点): 単位修得目標を達成できていない R: 未受験 Z: 受験資格失格			

*授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
英会話	選択	共通	1,2年前学期	演習	1	リチャード・オステン Richard S Austen	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				8, 9, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	Introduction Class	自己紹介を行う ・ 授業の流れに慣れる	/
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
2	Food and Drink	飲食についての話し方を学ぶ (好みや味など)	/
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
3	Hobbies and Interests	趣味について詳しく話す	/
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
4	Countries and Culture	行きたい国や旅行先でしたいことについて話す・異文化について学ぶ	/
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
5	Family and Friends	自分の家族や友達について詳しく話す	/
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
6	Appearance and Clothing	ファッション・服・外見・芸能人について話す	/
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
7	Japanese Food and Cooking	日本の料理の説明やお勧めの言い方について学ぶ	/
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
8	Travel	旅行先での役に立つフレーズや質問を学ぶ	/
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
9	Weather	天気や日本の四季について話す	/
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
10	Jobs	職場で使える英語の単語やフレーズを学び・様々な仕事について話す	/
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	

11	Making Foreign Friends	外国人とコミュニケーションを取ることにについて学ぶ	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
12	Review and Practice(1)	総合問題(1)以前の授業で学んだことを復習し練習する。 ロールプレーなどを通して、スピーキングに集中(1)	
	事前学習 10分	前回のワークシートを復習する	
	事後学習 20分	復習：スピーキングテストに向けて授業で学んだフレーズや語彙などを覚えること	
13	Review and Practice(2)	総合問題(2)以前の授業で学んだことを復習し練習する。 ロールプレーなどを通して、スピーキングに集中(2)	
	事前学習 10分	前回のワークシートを復習する	
	事後学習 20分	復習：スピーキングテストに向けて授業で学んだフレーズや語彙などを覚えること 定期試験のための復讐をしておく	
14	まとめとスピーキングテスト	スピーキングテストを行う。定期試験	
	事前学習 10分	前回のワークシートを復習する	
	事後学習 20分	復習：この授業で学んだフェーズや語彙を生活の中で使ってみる	
15			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
教養基礎演習Ⅱ	卒業必修	共通	2年 後学期	演習	1	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				3, 12, 14・15	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>テーマに沿った講義をうけて、演習形式として、資料・情報の収集、選択・整理、分析とまとめを行う。得られた内容は、個々が論文にまとめ、全員の前でプレゼンテーション（口頭発表）を行う。教員の指導の下で個々のテーマ設定、資料収集、発表要旨作成、口頭発表、論文作成を行う。本演習では、家族に関する諸問題をテーマとする。</p>							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・専攻の勉学において必要となる専門的知識を自主的に収集し、得られた知識についての情報を合理的に分析・整理することができる。 ・論文の作成方法を十分理解し、首尾よく実行することができる。 ・一定の時間的制約の中で、聴衆を意識しながら口頭発表を上手にすることができる。 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・専攻の勉学において必要となる専門的知識の収集し、得られた知識についての情報を自主的に分析・整理することができる。 ・論文の作成方法を理解し、実行することができる。 ・一定の時間的制約の中で、口頭発表をすることができる。 							
教科書							
なし							
参考書・資料							
各授業の講師が必要に応じて資料を配布							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
<ul style="list-style-type: none"> ・履修者は、毎回途中作成部分をメール添付にて提出することとし、次回の授業はそれを参考にして行われる。 							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・私語・スマートフォンの使用・飲食は厳禁。 ・課題は必ず指定された日時に提出する。 ・欠席した場合は後日、授業の配布プリント、課題を自分から受け取りに来る。 							
成績評価方法		成績評価基準					
発表準備(10%)、発表態度(10%)、発表要旨(10%)、成果物(50%)、受講態度(20%)の総合評価。		<p>S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格</p>					

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
教養基礎演習Ⅱ	卒業必修	共通	2年 後学期	演習	1	わたなべ 渡辺 じゅん 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				3, 12, 14・15	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	オリエンテーション	授業の目的・進め方・レポート作成の指導	
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる。	
	事後学習 10分	配布されたプリントを読む	
2	テーマの選択（1）	具体的な進め方指導・テーマの選択	
	事前学習 10分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	情報の収集	
3	テーマの選択（2）	テーマ決定のための情報収集・準備	
	事前学習 30分	テーマを選ぶ	
	事後学習 30分	情報の収集	
4	テーマの選択（3）	テーマ・内容の検討	
	事前学習 30分	パワーポイントハンドアウトの作成	
	事後学習 30分	情報の収集	
5	情報の整理分析とまとめ	内容検討	
	事前学習 30分	パワーポイントハンドアウトの作成	
	事後学習 30分	情報の収集・整理	
6	発表の準備（1）	発表準備	
	事前学習 30分	パワーポイントハンドアウトの作成、論文の作成	
	事後学習 30分	情報の収集・整理	
7	発表の準備（2）	論文の作成	
	事前学習 70分	論文の作成	
	事後学習 20分	情報の整理	
8	発表の準備（3）	論文の作成	
	事前学習 70分	論文の作成	
	事後学習 20分	情報の整理	
9	発表の準備（4）	論文の作成	
	事前学習 70分	論文の作成	
	事後学習 20分	情報の分析	
10	発表の準備（5）	パワーポイントハンドアウトの完成	
	事前学習 70分	論文の作成、パワーポイントハンドアウトの作成	
	事後学習 20分	論文の全体バランスの検討	

11	発表の準備（6）	要旨の作成	
	事前学習 70分	要旨の作成、論文の作成	
	事後学習 20分	論文の細部の修正	
12	プレゼンテーションの準備（1）	発表用非公式原稿の完成	
	事前学習 70分	要旨の作成	
	事後学習 20分	発表用非公式原稿の作成、音読	
13	プレゼンテーションの準備（2）	発表用非公式原稿の完成	
	事前学習 70分	発表用非公式原稿の完成、音読	
	事後学習 20分	発表用非公式原稿の修整、音読練習	
14	プレゼンテーションの実施	発表	
	事前学習 40分	発表の練習をする。	
	事後学習 30分	課題をみつける。修正した原稿を清書して提出する。	
15	まとめ	全体の振り返りと発表会の反省	
	事前学習 20分	論文の仕上げ、発表会の自己反省	
	事後学習 20分	論文を修正し提出する。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
家政学概論	卒業必修	共通	1年前学期	講義	2	きばやし しょうこ 木林 祥子	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目 (社主事)		特になし				1, 8, 11, 12, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
持続可能な社会における、質の高い生活および生活環境のありようを提案できるようになるため、衣食住、生活文化、家族、保育、消費など、生活に関する知識を、地球環境を視野に入れながら学ぶ。また、家政学の全体像を把握し、現代社会における家政学の役割と可能性について考察する。							
到達(成績評価A)目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・家政学とはどのような学問か説明できるようになる。【DP1:知識・技術】 ・持続可能な社会を実現するため、自分にできる具体的な社会貢献について述べるができるようになる。【DP1:知識・技術】 【DP2:思考力・判断力・表現力】 【DP3:主体性・多様性、協働性】 							
単位取得(成績評価C)目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・家政学とはどのような学問か概説できるようになる。【DP1:知識・技術】 ・持続可能な社会を実現するための、具体的な社会貢献について述べるができるようになる。【DP1:知識・技術】 【DP2:思考力・判断力・表現力】 【DP3:主体性・多様性、協働性】 							
教科書							
日本家政学会家政教育部会編：『家族生活の支援－理論と実践－』 建帛社（2014）¥2,420							
参考書・資料							
日本家政学会家政学原論部会編：『やさしい家政学原論』建帛社（2018）¥2,750							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
・授業中のスマートフォン操作を禁ずる(活用する場合は指示する)。							
成績評価方法		成績評価基準					
レポート(30%) 課題(60%) 授業態度(10%) の総合評価		S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格					

*授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認してください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
家政学概論	卒業必修	共通	1年前学期	講義	2	きばやし しょうこ 木林 祥子	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目 (社主事)		特になし				1, 8, 11, 12, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	
1	家政学とは	家政学を学ぶ意義、地球市民ビンゴ	
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
2	家政学と家庭科教育	家庭科教育の変遷と昨今の家庭科教育を知る	
	事前学習 20分	これまで受けた家庭科教育について振り返る	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
3	ジェンダーとセクシュアリティ	つくられるジェンダー	
	事前学習 20分	教科書P46～P60を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
4	パートナーの選択	サイレントオークション	
	事前学習 20分	教科書P61～P76を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
5	子育て・子育て	日本の子ども、世界の子ども	
	事前学習 20分	教科書P77～P96を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
6	高齢者と家族生活	高齢者の介護	
	事前学習 20分	教科書P108～P122を読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
7	食生活について	現代の食生活	
	事前学習 20分	教科書P123～P128を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
8	衣生活について	ファッションの裏側	
	事前学習 20分	教科書129～P130を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
9	生活文化について	生活文化の伝承と創造	
	事前学習 20分	生活文化から想像することがらやイメージを挙げておく	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
10	住生活について	世界と日本の住まい	
	事前学習 20分	教科書P130～P135を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	

11	地域社会と住環境	住まいと地域、まちづくり	
	事前学習 20分	自分の住んでいる地域の環境への取り組みを調べておく	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
12	家庭経済と消費生活	大量廃棄社会	
	事前学習 20分	教科書P143～P149を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
13	持続可能な社会に向けて	貿易ゲーム	
	事前学習 20分	持続可能な開発目標SDGs17の目標を調べておく	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
14	家政学の社会的役割と可能性	家政学の社会貢献	
	事前学習 20分	前学期の学習内容を振り返る	
	事後学習 20分	自分にできる具体的な社会貢献について考える	
15			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
食生活論	卒業必修	生デ	1年前学期	講義	2	みつし 三 きおり 沙織	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目 (FC・RS)		特になし				16	
実務経験のある教員による科目 該当なし							
授業の概要							
食生活は家庭生活における心身の健康との関りが強い。食生活に関する正しい知識・認識をもち、それをもとに考え実践することは「生活の質の向上を意識して、自らの人生を作り出す」ことへとつながる。本科目では、健康の維持・増進や疾病予防、豊かな食生活を送るための基礎的知識や考え方を学び、自身の現在および今後の食生活の中で実践していけるようにする。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・食生活の意義について理解し、現代社会の食生活の問題点を具体的に挙げるができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・日本の食文化の特徴について理解し、食生活や健康との関わりについて説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・食品の分類別の特徴が説明できるようになる。【DP1：知識・技能】 ・栄養素の種類とその働き、食品群について理解し、料理を組み合わせることでバランスのよい献立を作成できるようになる。【DP1：知識・技能】 ・健康、生活習慣病について理解し、健康の維持・増進と食生活とのかかわりが説明できるようになる。【DP1：知識・技能】 ・ライフステージに応じた食物摂取の特徴が説明できる。【DP1：知識・技能】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・食生活の意義について理解し、現代社会の食生活の問題点を挙げるができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・日本の食文化の特徴について理解し、食生活や健康との関わりについて概説することができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・食品の分類別の特徴が概説できるようになる。【DP1：知識・技能】 ・栄養素の種類とその働き、食品群について理解し、料理を組み合わせることで献立を作成することができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・健康、生活習慣病について理解し、健康の維持・増進と食生活とのかかわりが概説できるようになる。【DP1：知識・技能】 ・ライフステージに応じた食物摂取の特徴について列記することができる。【DP1：知識・技能】 							
教科書							
家庭料理技能検定専門委員会編：『家庭料理技能検定 公式ガイド3級』女子栄養大学出版部（2017）¥2,640							
参考書・資料							
日本ホテル・レストランサービス技能協会監修：『西洋料理 飲料接客サービス技法 2版』職業訓練教材研究会（2019）¥3,650 日本フードコーディネーター協会編：『新フードコーディネーター教本2020 3級資格 認定試験対応テキスト』柴田書店（2020）（購入済）							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
小テストは添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・自身の食生活に日ごろから関心を持つようにする。 ・スマートフォンの使用禁止 							
成績評価方法				成績評価基準			
定期試験（50%） 小テスト（30%） 受講態度（20%） の総合評価				S（100-90点）：到達目標を超えたレベルを達成している A（89-80点）：到達目標を達成している B（79-70点）：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C（69-60点）：単位修得目標を達成している D（59-0点）：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格			

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
食生活論	卒業必修	生デ	1年前学期	講義	2	みつし 三皇 さおり 沙織	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目 (FC・RS)		特になし				16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	食生活の意義と変遷	食生活と食生活論の意義、食事の役割	
	事前学習 5分	シラバスをよく読む	
	事後学習 30分	自分の食生活の問題点を把握する。	
2	食生活と食文化	日本料理の歴史、季節を意識した料理と食生活、食器と盛り付け・配膳	
	事前学習 15分	教科書p. 26～37を読んでくる。	
	事後学習 15分	授業内容を振り返り整理する。実際の食事で盛り付けや配膳を意識して実践する。	
3	食品の特徴と文化1	植物性食品の分類と特徴、伝来	
	事前学習 15分	教科書p. 82～93の各食品の性質の部分を読む。	
	事後学習 30分	各食品の特徴をまとめる。	
4	食品の特徴と文化2	動物性食品、嗜好飲料・食品、調味料の分類と特徴、伝来	
	事前学習 15分	教科書p. 93～102の各食品の性質部分を読む。	
	事後学習 30分	各食品の特徴をまとめる。	
5	食生活と栄養1	食生活と健康とのかかわり、栄養素の種類とその働き	
	事前学習 15分	教科書p. 38～40、45～48を読む。	
	事後学習 30分	小テストの復習をする	
6	食生活と栄養2	いろいろな食品群(三色食品群、六つの基礎食品群、4つの食品群)	
	事前学習 30分	教科書p. 49～67を読む。	
	事後学習 30分	それぞれの食品群に該当する食品を分類できるように、内容を整理する。	
7	食生活と栄養3	一皿分の適量、献立作成の手順	
	事前学習 30分	教科書p. 68～80を読む。	
	事後学習 30分	実際の食生活でも料理の組み合わせや量を意識して、実践する。	
8	食生活と健康	健康の概念、生活習慣病と食生活、健康増進のための対応策、食事バランスガイド	
	事前学習 15分	教科書p. 41～44を読む。	
	事後学習 30分	食生活指針の中から自分が取り組めることを考え、実践する。	
9	食生活と調理・加工	食品の調理法、食品の加工・貯蔵、調理・加工器具	
	事前学習 30分	教科書p. 103～115を読む。	
	事後学習 15分	調理法、加工・貯蔵法についてまとめる。	
10	ライフステージと食物摂取1	妊娠期、乳幼児期、学童期	
	事前学習 30分	離乳食について、市販されているものにはどのようなものがあるか見てくる。	
	事後学習 15分	母性、乳幼児期、学童期、思春期の食物摂取の特徴をまとめる。	

11	ライフステージと食物摂取2	思春期、壮・中年期、高齢期	
	事前学習 15分	介護食について調べる。	
	事後学習 15分	成人期、老年期の食物摂取の特徴をまとめる。	
12	食品の安全性	食中毒の分類と発生状況、原因と予防	
	事前学習 30分	食品の安全についての最近のニュースを調べる。	
	事後学習 15分	食中毒の原因と予防についてまとめる。	
13	食生活と環境	食生活と環境、食品の表示	
	事前学習 15分	食生活の中で環境に配慮できることを考える。	
	事後学習 15分	無理なく実践できることを一つずつ行う。食品の表示を確認する。	
14	まとめ	振り返りと定期試験	
	事前学習 270分	前学期全体の学習内容を振り返り、豊かな食生活を送るための基礎的事項がわかるようにする。	
	事後学習 90分	試験でできなかったところを見直し、学習内容を定着させる。	
15			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
衣・住生活論	卒業必修	共通	1年前学期	講義	2	はた くみこ やまむら みほり 畑 久美子・山村 美保里	オムニバス
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				15, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>自らの人生を作り出し、社会に貢献する力を身につけるために、家庭を中心とした衣生活・住生活を総合的、科学的に認識し、衣生活・住生活の質の向上を目指す。住生活分野では、世界の伝統的住居にみられる風土に適した住まい及び我が国の住まいの変遷を通して住宅の役割を学ぶ。更に、安全と防災、環境、ライフスタイル等の住まいの計画に必要な要素を学ぶ。衣生活分野では、人間にとって衣はどのような存在かを考え、人と社会と衣の関係について学ぶ。人間が被服を身につけるようになってから現代までの服装の変遷をはじめ、健康や環境とのかかわり</p>							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・風土と住まい、住まいの機能と役割を学び、自分の言葉で住まいの意義を説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・学んだ知識を活かし、安全で健康な住まいを営むための提案ができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・人間が衣服を着用する意味を知り、自分の言葉で衣服の意義を説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・衣服や衣生活、アパレル産業に関する知識を活かし、主体的で快適な衣生活を営むための提案ができるようになる。【DP2：思考力、判断力、表現力】【DP3：主体性・多様性、協働性】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・風土と住まい、住まいの機能と役割を学び、住まいの意義を説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・学んだ知識を活かし、安全で健康的な住まいを営むための情報収集ができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・人間が衣服を着用する意味を知り、衣服の意義を説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・衣服や衣生活、アパレル産業に関する知識を活かし、主体的で快適な衣生活を営むための情報収集ができるようになる。【DP2：思考力、判断力、表現力】【DP3：主体性・多様性、協働性】 							
教科書							
必要な資料は適宜配布							
参考書・資料							
<p>岡田宣子他：『ビジュアル衣生活論』 建帛社（2010）¥2,484 間瀬清美 他：『新版 衣生活の科学 テキスタイルから流通マーケットへ』 アイ・ケイコーポレーション（2015）¥2,808</p>							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
特になし							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中のスマートフォンの操作禁止 ・私語厳禁 ・他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求められることがある 							
成績評価方法				成績評価基準			
以下の項目の総合評価とする。 確認テスト(60%) 授業内課題(20%) 受講態度(20%)				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格			

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認してください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
衣・住生活論	卒業必修	共通	1年前学期	講義	2	はた くみこ やまむら みほり 畑 久美子・山村 美保里	オムニバス
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				15, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ガイダンス 風土と住まい	講義の目的及び方針、基礎事項の解説等 世界の伝統的住居	山村
	事前学習 5分	シラバスを読んでおく	
	事後学習 10分	プリントを復習する	
2	日本の住まいの変遷 I	日本の気候風土と住まいの関係 前近代までの住まいの変遷	山村
	事前学習 30分	伝統的住居について参照しておく	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
3	日本の住まいの変遷 II	住まいの近代化	山村
	事前学習 30分	日本の気候風土と伝統的住居の資料を参照しておく	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
4	現代の住宅	住宅政策と課題	山村
	事前学習 30分	町を観察しておく	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
5	住環境 I	住まいの危険と防災	山村
	事前学習 30分	自宅及び町を観察しておく	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
6	住環境 II	まちづくりと関連法規	山村
	事前学習 30分	町を観察しておく	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
7	住生活分野の復習	1～6回までの確認テストと総括	山村
	事前学習 30分	これまでのプリントを復習する	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
8	衣生活とは、気候風土と装い	衣とは何か、装いの起源、衣の基本型、衣の民族性・地域性	畑
	事前学習 10分	シラバスを読む。	
	事後学習 30分	学習した内容を復習し自分の考えをまとめる。	
9	被服の変遷	西洋服装史、日本服飾史	畑
	事前学習 30分	プリントを読んでおく。	
	事後学習 30分	衣服の変遷について振り返り、現代の衣服との違いを考える。	
10	和服と日本の生活文化	和服の種類と着装形態、和服の構成、ライフステージと和服	畑
	事前学習 30分	プリントを読んでおく。和服について関心を持つ。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	

11	アパレル産業と既製服	アパレル産業と既製服生産システム、環境保全活動、衣服の選択、サイズ表示、素材と管理	畑
	事前学習 30分	プリントを読んでおく。所持する衣服のサイズ表示を見ておく。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	
12	衣服の快適性と健康	被服衛生と健康、衣と福祉、衣服内気候、衣服圧と着心地、体型と衣服	畑
	事前学習 30分	プリントを読んでおく。着心地の良い衣服とは何か考えておく。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	
13	服飾文化と流行	色彩文化、ファッション、心理と流行、衣服と個性・社会性	畑
	事前学習 30分	プリントを読んでおく。現代の流行を調べておく。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	
14	衣生活分野の復習	7～13回までの確認テストと総括	畑
	事前学習 30分	これまでのプリントを復習する	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
15			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
衣生活論	生デ：卒業 必修 食栄：選択	共通	1年 前学期	講義	2	はた くみこ 畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				14, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>自らの人生を作り出し、社会に貢献する力を身につけるために、家庭を中心とした衣生活を総合的、科学的に認識し、衣生活の質の向上を目指す。人間にとって衣はどのような存在かを考え、人と社会と衣の関係について学ぶ。人間が被服を身につけるようになってから現代までの服装の変遷、健康と被服、被服材料、被服構成、ファッション、デザイン、服飾文化、洗濯や取り扱いの仕方などの被服整理、被服心理、消費、資源としての被服、環境とのかかわり等について学ぶ。</p>							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・人間が衣服を着用する意味を知り、自分の言葉で衣服の意義を説明することができるようになる。 ・衣服や衣生活、アパレル産業に関する知識を活かし、主体的で快適な衣生活を営むための提案ができるようになる。 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・人間が衣服を着用する意味を知り、衣服の意義を説明することができるようになる。 ・衣服や衣生活、アパレル産業に関する知識を活かし、主体的で快適な衣生活を営むための情報収集ができるようになる。 							
教科書							
岡田宣子他：『ビジュアル衣生活論』建帛社（2010）¥2,484							
参考書・資料							
間瀬清美 他：『新版 衣生活の科学 テキスタイルから流通マーケットへ』アイ・ケイコーポレーション（2015）¥2,808 小林茂雄 他：『改訂 衣生活論 装いを科学する』アイ・ケイコーポレーション（2008）¥2,052							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
特になし							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・携帯端末使用禁止。 ・忘れ物厳禁。 							
成績評価方法				成績評価基準			
以下の項目の総合評価とする。 定期試験(60%) 授業内課題(20%) 受講態度(20%)				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格			

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
衣生活論	生デ：卒業 必修 食栄：選択	共通	1年 前学期	講義	2	はた くみこ 畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				14, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	衣生活とは、気候風土と装い	衣とは何か、装いの起源、衣の基本型、衣の民族性・地域性	
	事前学習 5分	シラバスと教科書「はじめに」を読む。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	
2	被服の変遷	西洋服装史	
	事前学習 30分	教科書p. 6～11を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	
3		日本服飾史	
	事前学習 30分	教科書p. 12～14を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	
4	和服と日本の生活文化	和服の種類と着装形態、和服の構成、ライフステージと和服	
	事前学習 30分	教科書p. 14～17を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	
5	洋服の構成と造形	洋服の構成、採寸、型紙、縫製、サイズ表示	
	事前学習 30分	和服と洋服の違いについて考えておく。教科書p. 94～103を読む。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	
6	衣服の快適性と着心地	被服衛生と健康、衣の人体保護機能、被服気候、体温と外気温、衣服内湿度	
	事前学習 30分	教科書p. 22～51を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	
7		身体の拘束とゆとり、動きやすさ、衣服圧、体型と衣服	
	事前学習 30分	教科書p. 52～63を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	
8		心理的快適性、衣服と個性・社会性、ジェンダー	
	事前学習 30分	教科書p. 112～115を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	
9	アパレル産業と既製服	アパレル産業と既製服生産システム	
	事前学習 30分	教科書p. 104～106を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	
10		アパレル製品の種類とアイテム	
	事前学習 30分	教科書p. 106～111を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	

11		アパレル素材とデザイン、被服管理と取り扱い絵表示	
	事前学習 30分	教科書p. 64～93を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	
12	衣服と機能	ユニフォーム、特殊衣服、衣と福祉	
	事前学習 30分	教科書p. 128～137を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	
13	服飾文化と流行	色彩文化、ファッション、流行のしくみ	
	事前学習 30分	教科書p. 118～121を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	
14	消費と環境	選択、表示、消費、廃棄、環境保全	
	事前学習 30分	教科書p. 138～144を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	
15			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
妊娠と出産の科学	選択	共通	2年前学期	講義	2	いわくら こうき 岩倉 弘毅	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 食物栄養専攻科目		特になし				—	
実務経験のある教員による科目							
長年にわたって産婦人科医として医療に携わっている経験を活かして、妊娠から出産に至るまでを体験を踏まえて講義します。							
授業の概要							
女性のライフサイクルにおける思春期から妊娠、出産、産褥までの知識を理解する。 ①主として口頭による講義、筆記による説明を行う。 ②ビデオを用い出産の様子を供覧する。 ③各種プリントを用いる。 ④妊産婦用の参考パンフレットを用いる。							
到達（成績評価A）目標							
女性のライフサイクルを理解し、その中で、妊娠・出産に関する生理および病理の知識を習得したことを表現し、説明できるようになる。さらに、将来の自分自身にあてはめて考えられるようになる。							
単位取得（成績評価C）目標							
女性のライフサイクルを理解し、その中で、妊娠・出産に関する生理および病理の知識を習得し、将来の自分自身にあてはめて考えられるようになる。							
教科書							
特になし							
参考書・資料							
今関節子他：『新看護学－母子看護』 医学書院（最新版） ¥3,190 母子保健事業団：『母子保健の主なる統計』（最新版） ¥1,980							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
特になし							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の前後で質問を受け付ける ・私語厳禁 ・携帯電話操作厳禁 ・遅刻厳禁 							
成績評価方法				成績評価基準			
受講態度(30%)、定期試験(70%)の総合評価。				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格			

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
妊娠と出産の科学	選択	共通	2年前学期	講義	2	いわくら こうき 岩倉 弘毅	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 食物栄養専攻科目		特になし				—	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	女性のライフサイクルについて	女性の一生における体の変化	
	事前学習 5分	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもって調べる。	
	事後学習 45分	授業の復習をする。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	
2	思春期の諸問題	思春期の生理、月経の発来、性感染症、性教育	
	事前学習 30分	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもって調べる。	
	事後学習 45分	授業の復習をする。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	
3	妊娠の症状と診断	妊娠の成立、診断の方法	
	事前学習 30分	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもって調べる。	
	事後学習 45分	授業の復習をする。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	
4	正常妊娠の経過	胎児の発育、妊婦健診の流れ	
	事前学習 30分	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもって調べる。	
	事後学習 45分	授業の復習をする。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	
5	異常妊娠（初期）	妊娠初期に起こり易い異常（薬物、感染による）	
	事前学習 30分	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもって調べる。	
	事後学習 45分	授業の復習をする。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	
6	異常妊娠（中期・後期）	妊娠中後期に起こり易い異常（高血圧症、糖尿病など）	
	事前学習 30分	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもって調べる。	
	事後学習 45分	授業の復習をする。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	
7	出産の定義と経過	経膈分娩の経過、分娩の三要素	
	事前学習 30分	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもって調べる。	
	事後学習 45分	授業の復習をする。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	
8	出産への取り組み	経膈分娩の経過（ビデオ、無痛分娩）	
	事前学習 30分	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもって調べる。	
	事後学習 45分	授業の復習をする。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	
9	異常出産(1) 母体の異常	母体合併症、ハイリスク妊娠	
	事前学習 30分	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもって調べる。	
	事後学習 45分	授業の復習をする。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	
10	異常出産(2) 胎児の異常	胎位、多胎、奇形児など	
	事前学習 30分	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもって調べる。	
	事後学習 45分	授業の復習をする。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	

11	異常出産(3) 急速遂娩	帝王切開、吸引分娩、鉗子分娩	
	事前学習 30分 事後学習 45分	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもって調べる。 授業の復習をする。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	
12	産褥の生理	産褥期母体の変化	
	事前学習 30分 事後学習 45分	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもって調べる。 授業の復習をする。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	
13	新生児の生理、母児保健の主な統計	新生児の管理、授乳など 人口動態、妊産婦死亡、周産期死亡、合計特殊出生率など	
	事前学習 30分 事後学習 45分	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもって調べる。 授業の復習をする。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	
14	関係法規について、定期試験	母子保健法、労働基準法、母体保護法など、定期試験	
	事前学習 30分 事後学習 45分	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもって調べる。 授業の復習をする。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	
15			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
家庭経営学	卒業必修	共通	2年前学期	講義	2	きばやし しょうこ 木林 祥子	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				1, 8, 11, 12, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
自分らしい人生を作り出すため、家庭を中心とした生活における様々な課題について学び、自分の問題としてとらえ考察する。生活にかかわる諸問題は、個人・家族の努力や工夫の範囲を超えて、地域や国の政策、さらには地球規模の連携まで視野に入れないと解決できないことを認識し、その改善や解決に、自分が何ができるかを考え主体的に関わる態度を身につける。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・自分らしく生きることの大切さを認識し、社会的な課題も視野に入れてライフプランを作成できるようになる。 ・ライフステージごとの具体的な課題について理解し、自分なりの解決策を考え提示できるようになる。 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・自分らしく生きることの大切さを認識し、ライフプランを作成できるようになる。 ・ライフステージごとの具体的な課題について説明できるようになる。 							
教科書							
1年前学期「家政学概論」で使用した教科書を使用する。 ※日本家政学会家政教育部会編：『家族生活の支援－理論と実践－』 建帛社（2014） ¥2, 420							
参考書・資料							
赤星礼子・奥村美代子編：『新版 生活経営学』九州大学出版会（2013） ¥2, 200							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
提出は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
・授業中のスマートフォン操作を禁ずる(活用する場合は指示する)。							
成績評価方法				成績評価基準			
レポート(30%) 課題 (60%) 授業態度(10%) の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格			

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
家庭経営学	卒業必修	共通	2年前学期	講義	2	きばやし しょうこ 木林 祥子	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				1, 8, 11, 12, 16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	家庭経営の考え方	家庭経営学の内容	
	事前学習 5分	シラバスをよく読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
2	価値判断と意思決定	価値観オークション	
	事前学習 20分	教科書P13～P22を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
3	ライフサイクル	ライフイベント、タイムライン	
	事前学習 20分	教科書P31～P37を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
4	家族生活と法・政策	家族と法律、生活保障	
	事前学習 20分	教科書P38～P45を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
5	結婚とパートナー関係	紙上ディベート	
	事前学習 20分	教科書P61～P67を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
6	家族と労働	何のために働くのか	
	事前学習 20分	教科書P97～P104を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
7	生活時間のマネジメント	ワーク・ライフ・バランス	
	事前学習 20分	教科書P136～P142を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
8	親になる準備	子どもを生む・生まない・生めない	
	事前学習 20分	教科書P67～P76を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
9	子どもと家族	欲しいもの・必要なもの、子どもの貧困	
	事前学習 20分	教科書P77～P96を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
10	高齢者と家族	高齢期をどう生きるか	
	事前学習 20分	教科書P108～P122を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	

11	生活経済のマネジメント	消費欲求	
	事前学習 20分	教科書P143～P149	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
12	ライフキャリアレインボー	ライフプランの作成	
	事前学習 20分	これまでの学習を振り返り自分らしい生き方について考えておく	
	事後学習 60分	ライフプランを完成させる	
13	世界の人々とかかわって生きる	エコロールプレイ	
	事前学習 20分	環境問題について調べておく	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
14	地球市民としての生活者の貢献	持続可能な開発目標SDGs	
	事前学習 20分	前学期の学習内容を振り返る	
	事後学習 20分	自分にできる具体的な社会貢献について考える	
15			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
家族関係学	卒業必修	共通	1年 後学期	講義	2	わたなべ 渡辺 じゅん 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
現代日本の家族は、現代社会の変化に応じて大きく変化している。家族の機能や役割も変化し、そうした中で家族が抱える問題も社会問題として注目を集めている。こうした家族の問題を捉えるために、家族についての基本的な概念や家族の普遍性と多様性を学び、現代人がもっている「家族」概念の再検討を行う。現代家族をめぐるさまざまな側面を理解するために、社会・心理的な側面から家族の傾向性を学ぶとともに、問題解決のために必要なコミュニケーションについて考える。学んだことを踏まえて、家族の現代的な問題について学生が自ら発言することで理解を深めていく。							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・家族についての基本的な概念を理解できるようにする。【DP1：知識・技術】 ・現代家族が抱える諸問題について関心を持ち、自分なりの考えが述べられるようになり、他者と意見交換ができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 【DP3：主体性・多様性、協働性】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・家族についての基本的な概念を理解できるようにする。【DP1：知識・技術】 ・現代家族が抱える諸問題について関心を持ち、理解することができる。【DP1：知識・技術】 							
教科書							
長津美代子・小澤千穂子編著：『改訂 新しい家族関係学』 建帛社（2018）¥2,530							
参考書・資料							
必要に応じてプリントを配布する							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
ミニットペーパーは翌々週の授業時に返却する							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・私語厳禁 ・授業の中での積極的な発言が求められる 							
成績評価方法				成績評価基準			
取組み姿勢(15%) 小テスト+提出物(85%) の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格			

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
家族関係学	卒業必修	共通	1年 後学期	講義	2	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	はじめに	自分の家族を振り返る	
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 30分	授業で学んだことを復習する	
2	家族の起源、家族の文化	家族の起源・文化による家族の意味の相違を学ぶ	
	事前学習 30分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んでくる	
	事後学習 30分	授業で学んだことを復習する	
3	家族の歴史	日本における家族の歴史をたどる	
	事前学習 30分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んでくる	
	事後学習 30分	授業で学んだことを復習する	
4	「近代家族」の歴史	現代人の持つ家族イメージが歴史的に作られたものであることを知る	
	事前学習 30分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んでくる	
	事後学習 30分	授業で学んだことを復習する	
5	「近代家族」の終焉	「近代家族」の理想が崩壊した社会的背景を学ぶ	
	事前学習 30分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んでくる	
	事後学習 30分	授業で学んだことを復習する	
6	現代家族の多様化	現代において家族が多様化している実態を学ぶ	
	事前学習 30分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んでくる	
	事後学習 30分	授業で学んだことを復習する	
7	結婚と家族	結婚の意味の変化から家族を考える	
	事前学習 30分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んでくる	
	事後学習 30分	授業で学んだことを復習する	
8	夫婦間のコミュニケーション	夫婦間のコミュニケーションを考える	
	事前学習 30分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んでくる	
	事後学習 30分	授業で学んだことを復習する	
9	離婚と再婚	離婚・再婚と家族について学ぶ	
	事前学習 30分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んでくる	
	事後学習 30分	授業で学んだことを復習する	
10	家計と夫婦	家計と夫婦の関係を考える	
	事前学習 30分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んでくる	
	事後学習 30分	授業で学んだことを復習する	

11	育児期の家族	育児期の家族の実態を学ぶ	
	事前学習 30分 事後学習 30分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んできると 授業で学んだことを復習する	
12	父親の役割	家族における父親・父親の育児参加について考える	
	事前学習 30分 事後学習 30分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んできると 授業で学んだことを復習する	
13	親子の関係	成長後の子どもと親との関係について学ぶ	
	事前学習 30分 事後学習 30分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んできると 授業で学んだことを復習する	
14	家族の問題を越えて	DV・児童虐待・機能不全家族等、現代家族の問題を考える	
	事前学習 30分 事後学習 30分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んできると 授業で学んだことを復習する	
15	まとめ	本科目において学んだことを概観し、確認する	
	事前学習 30分 事後学習 30分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んできると 授業で学んだことを復習する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
介護概論	生デ：卒業 必修 食栄：選択	共通	2年 前学期	講義	2	なかの 中野 都	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目・食物栄養専攻 科目(社主事)		教科書購入者				15, 17	
実務経験のある教員による科目							
居宅介護支援事業所の在職経験を有した教員より、介護に対する基本的な知識及び介護支援全般について学ぶ。							
授業の概要							
高齢化の急速な伸びと同時に、寝たきりや認知症といった要介護者の増加が顕著となっている現代社会においては、介護を社会的に支援する必要がある。高齢者の身体的特性及び心理を学び、介護の役割と範囲を理解し、看護・医療及び家政との関係を具体的な展開過程を活用して考える。							
到達（成績評価A）目標							
介護に対する基本的な知識を得た上で、介護と自分を関係づけることができる。 1. 講義で学ぶ理論と老人保健施設におけるふれあい体験活動の実践を通して得られたことを活かし、「介護」とは何かについて説明することができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 2. 日常生活において支援が必要な高齢者に対して積極的な援助活動ができるよう介護に対して理解を深め、行動できるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働性】							
単位取得（成績評価C）目標							
介護に対する基本的な知識を得た上で、介護と自分を関係づけることができる。 1. 講義で学ぶ理論と老人保健施設におけるふれあい体験活動の実践を通して得られたことを活かし、「介護」とは何かについて認識できるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 2. 日常生活において支援が必要な高齢者に対して援助活動ができるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働性】							
教科書							
菊池信子編著：『福祉実践をサポートする介護概論 第2版』 保育出版社（最新版）¥2,619							
参考書・資料							
適宜資料を配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
提出課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
1. 高齢者介護に関する新聞記事やニュースに常に興味をもち、介護に対する意識を高め、資料収集する。 2. 授業中は携帯電話の使用及び私語は禁止する。							
成績評価方法		成績評価基準					
定期試験(50%) 受講態度(30%) 授業内レポート(20%) の総合評価		S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格					

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
介護概論	生デ：卒業 必修 食栄：選択	共通	2年 前学期	講義	2	なかの 中野 都	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目・食物栄養専攻 科目(社主事)		教科書購入者				15, 17	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	介護の概念（１）	介護の理念と定義	
	事前学習 15分	シラバス及び教科書の該当ページを読み、授業内容を把握する。	
	事後学習 30分	介護の理念と定義について確認する。	
2	介護の概念（２）	介護の対象	
	事前学習 30分	介護の対象について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	介護の対象者について復習する。	
3	高齢者の全体像（１）	高齢者の身体的特性	
	事前学習 30分	加齢に伴う身体的変化について調べる。	
	事後学習 30分	高齢者の身体的特性について復習する。	
4	高齢者の全体像（２）	高齢者の心理的特性	
	事前学習 30分	高齢者の心理的特性について調べる。	
	事後学習 30分	高齢者の心理的特性について復習する。	
5	高齢者の生活実態の把握（１）	生活（衣食住）の実態	
	事前学習 30分	高齢者の生活実態について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の介護の場でどのように活かせるかを考える。	
6	高齢者の生活実態の把握（２）	介護の社会化	
	事前学習 30分	介護の社会化について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 60分	高齢化の推移と介護の社会化についてまとめる。	
7	高齢者の生活実態の把握（３）	介護保険制度	
	事前学習 30分	介護保険の申請方法及びサービス内容について調べる。	
	事後学習 30分	介護保険制度の概要をまとめる。	
8	高齢者の生活実態の把握（４）	介護の実態と課題	
	事前学習 30分	介護の実態と課題について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 60分	介護の実態を確認し、課題解決に向けての取り組みについて理解する。	
9	高齢者の生活実態の把握（５）	寝たきり高齢者の実態	
	事前学習 30分	寝たきりに高齢者の課題について考える。	
	事後学習 30分	寝たきり高齢者の生活実態を理解し、意向に沿った介護について考える。	
10	高齢者の生活実態の把握（６）	認知症高齢者の実態	
	事前学習 30分	認知症高齢者の課題について考える。	
	事後学習 30分	認知症高齢者の生活実態について理解し、意向に沿った介護について考える。	

11	介護を支える技術	生活行為を成立させるための技術・家事機能を維持拡大する生活技術	
	事前学習 30分	介護を支える技術について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の介護の場でどのように活かせるかを考える。	
12	介護の過程 在宅における介護	ケアマネジメントの必要性 在宅援助の基本 福祉住環境整備の重要性	
	事前学習 30分	介護の過程・在宅における介護について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	利用者や家族の意向を重視したケアマネジメントとは何かを考える。	
13	施設における介護	特別養護老人ホームにおけるふれあい体験	
	事前学習 30分	特別養護老人ホームの概要を把握する。	
	事後学習 60分	施設見学レポートを作成する。	
14	まとめ	全体の振り返りと定期試験	
	事前学習 180分	前学期全体の学習内容を振り返り、介護の全体像をわかるようにする。	
	事後学習 60分	試験でできなかったところを見直し、学習を定着させ、介護について学んだことをどのような場で活かせるかを考える。	
15			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
消費生活と環境	卒業必修	共通	2年 後学期	講義	2	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				—	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>私たちが日々行なっている「消費」について多面的に検討し、賢く責任感ある消費者になるための必須事項を習得する。まず、現代の消費社会における消費者と事業者の情報力および交渉力格差によって生ずる消費者問題を理解し、対策について学ぶ。次に、環境保全の視点から現実の問題を分析するとともに、責任感ある消費者としての力の涵養をめざす。全体として、消費者としての自らの身を守るよう学習を進めるうちに、より広い社会の変化を理解するとともに、加害者としての消費者にはならないための能力の涵養に努める。</p>							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・消費者問題が発生する背景や実態を理解できる。 ・現代社会における消費者として行動するために必要な基礎的知識を理解できるようになる。 ・環境問題を理解し、持続可能な社会の構築をめざすことができるようになる。 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・消費者問題が発生する背景や実態を理解できる。 ・現代社会における消費者として必要な基礎的知識がわかるようになる。 ・環境問題を理解し、持続可能な社会の構築をめざすための基礎知識がわかるようになる。 							
教科書							
なし（プリントを配布する）							
参考書・資料							
授業内に適宜指示する。							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
ミニットペーパーは翌週の授業時に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な発言が期待される。 ・遅刻厳禁。 ・私語は禁止。 ・予習すべき内容を授業ごとに指示する。 							
成績評価方法				成績評価基準			
取組み姿勢(20%) 提出物 (30%) 定期試験(50%)の総合評価				S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格			

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
消費生活と環境	卒業必修	共通	2年 後学期	講義	2	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				—	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	イントロダクション	授業の進め方	
	事前学習 5分	シラバスの該当ページを読む	
	事後学習 15分	課題プリントの演習	
2	消費者問題の基礎知識(1)	消費者問題とは何か、消費者被害の歴史と現状	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
3	消費者問題の基礎知識(2)	消費者行政の歴史、企業による消費者問題対応	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
4	商品・サービスの取引(1)	契約、特定商取引、悪質商法(1)	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
5	商品・サービスの取引(2)	悪質商法(2)、クーリングオフ	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
6	商品・サービスの安全性	食品・医薬品・医療機器・化粧品、電気・ガス用品、家庭用品、住まい等	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
7	商品・サービスの表示	表示、広告、様々なマーク(1)	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
8	消費者信用	月賦販売、クレジットカード、多重債務	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
9	消費者の責任	消費者運動、フェアトレード	
	事前学習 30分	テキストの指定されたページを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
10	環境問題と消費者(1)	地球温暖化と消費者	
	事前学習 30分	テキストの指定されたページを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	

11	環境問題と消費者(2)	電力需要と消費者	
	事前学習 30分 事後学習 30分	テキストの指定されたページを読む 課題プリントの演習	
12	環境問題と消費者(3)	ごみ処理、プラスチックと消費者、様々なマーク(2)	
	事前学習 30分 事後学習 30分	テキストの指定されたページを読む 課題プリントの演習	
13	環境問題と消費者(4)	食品ロス	
	事前学習 30分 事後学習 30分	テキストの指定されたページを読む 課題プリントの演習	
14	環境問題と消費者(5)	水質汚染、大気汚染と消費者	
	事前学習 30分 事後学習 30分	配布されたプリントを読む 課題プリントの演習	
15	環境問題と消費者(6)	種の多様性と消費者	
	事前学習 30分 事後学習 30分	配布されたプリントを読む 課題プリントの演習	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
英語基礎演習a	—	共通	1年前学期	演習	1	わたなべ じゅん 渡辺 淳	クラス分け
科目区分		履修条件				AL	
支援科目〔共通〕		英語基礎演習 a クラスに該当する者				6・7, 16	
実務経験のある教員による科目 該当なし							
授業の概要 本演習は、入学時の試験成績によりクラス分けされた上位者を対象とし、1年次後学期に開講される卒業必修科目でやはり学力レベルによってクラス分けされる「英語コミュニケーションⅠ」の上位クラスで学習するために必要な基礎事項を、文法を中心に、コミュニケーションに必要な事項とともに学習する。							
到達（成績評価A）目標 ・「標準英語スキルズ」で必要とされる基礎的な文法力が十分に身についている。【DP1：知識・技能】 ・「標準英語スキルズ」で必要とされる、コミュニケーションに必要な基礎力が十分に身についている 【DP1：知識・技能】 ・基礎的な文法力を土台にした読解力がかなり身についている。【DP1：知識・技能】							
単位取得（成績評価C）目標 ・「標準英語スキルズ」で必要とされる基礎的な文法力がかなり身についている。【DP1：知識・技能】 ・「標準英語スキルズ」で必要とされる、コミュニケーションに必要な基礎力が相当程度身についている。【DP1：知識・技能】 ・基礎的な文法力を土台にした読解力が身についている。【DP1：知識・技能】							
教科書 大坂 四郎：『First Steps to English Grammar』 南雲堂（2006）¥2,090 標準英語スキルズと同じ							
参考書・資料 必要に応じてプリントを配布する。CD, DVDを使用する。							
教科書以外にかかる費用(自己負担) 特になし							
課題に対するフィードバック 毎回課題を与え、板書を利用しつつ、解説する。							
履修上の注意・備考・メッセージ ・遅刻・私語厳禁。 ・積極的な参加が求められる。 ・必ず英和及び英和辞典を持参する。							
成績評価方法		成績評価基準					
取組姿勢 (30%) 小テスト (30%) 定期試験 (40%) の総合評価		S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格					

*授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
英語基礎演習a	—	共通	1年前学期	演習	1	わたなべ じゅん 渡辺 淳	クラス分け
科目区分		履修条件				AL	
支援科目〔共通〕		英語基礎演習 a クラスに該当する者				6・7,16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	be動詞、一般動詞、文の種類	be動詞、一般動詞、疑問文	/
	事前学習 5分	シラバスの該当ページを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	
2	特殊な文	There is～構文、命令文	/
	事前学習 15分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 30分	課題の演習	
3	時制(1)	未来形、進行形	/
	事前学習 15分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 30分	課題の演習	
4	時制(2)	現在完了	/
	事前学習 15分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 30分	課題の演習	
5	代名詞・助動詞・受動態・比較(1)	代名詞・助動詞	/
	事前学習 15分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 30分	課題の演習	
6	代名詞・助動詞・受動態・比較(2)	受動態・比較	/
	事前学習 15分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 30分	課題の演習	
7	準動詞(1)	不定詞	/
	事前学習 15分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 30分	課題の演習	
8	準動詞(2)	分詞・動名詞	/
	事前学習 15分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 30分	課題の演習	
9	節(1)	接続詞	/
	事前学習 15分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 30分	課題の演習	
10	節(1)	関係代名詞	/
	事前学習 15分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 30分	課題の演習	

11	熟語、it	熟語、it	
	事前学習 15分 事後学習 30分	テキストの指定されたページを予習する 課題の演習	
12	会話表現	会話表現	
	事前学習 15分 事後学習 30分	テキストの指定されたページを予習する 課題の演習	
13	TOEIC、就職試験等への準備	応用演習	
	事前学習 15分 事後学習 30分	テキストの指定されたページを予習する 課題の演習	
14	まとめ	全体の振り返りと定期試験	
	事前学習 80分 事後学習 30分	全体の学習内容を振り返り、学び全体を確認する。 学びの足りない部分を確認し、今後の英語学習のための心の準備をする。	
15			

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
英語基礎演習b	—	共通	1年 前学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	クラス 分け
科目区分		履修条件				AL	
支援科目〔共通〕		英語基礎演習bクラスに該当する者				6・7,16	
実務経験のある教員による科目 該当なし							
授業の概要 本演習は、入学時の試験によりクラス分けされた、基礎英語の再復習を要するクラスのための授業として、基礎文法に焦点をあて、多くの問題を与え、繰り返し学習する。							
到達（成績評価A）目標 英語の基礎文法を再習得することにより、 (1)英語の基礎習熟度を全体的に上げること (2)次段階のリーディング、リスニング、英字新聞読解、身近な英語的話題の総合的な理解につなげることを目標とする。【DP1:知識・技能】							
単位取得（成績評価C）目標 英語の基礎文法を再習得することにより、 (1)英語の基礎習熟度を部分的に上げること (2)次段階のリーディング、リスニング、英字新聞読解、身近な英語的話題の基礎的な理解につなげることを目標とする。【DP1:知識・技能】							
教科書 大坂四郎：『First Steps to English Grammar カレッジ英文法入門』 南雲堂（最新版）¥2,090							
参考書・資料 なし							
教科書以外にかかる費用(自己負担) 特になし							
課題に対するフィードバック 教科書の練習問題はほぼ全てを授業中に受講学生に順番に課し、一問ずつ答えてもらう。その答えの正否と模範解答をその場で黒板に清書しながら解説する。							
履修上の注意・備考・メッセージ ・単元によってレポートを課す。 ・必ず辞書を持参すること。							
成績評価方法		成績評価基準					
授業中の態度(20%) レポート(30%) 定期試験(50%) の総合評価		S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない R：未受験 Z：受験資格失格					

*授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
英語基礎演習b	—	共通	1年前学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	クラス分け
科目区分		履修条件				AL	
支援科目〔共通〕		英語基礎演習bクラスに該当する者				6・7,16	

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	be動詞・現在形(1)	主語と動詞、名詞の単数形と複数形、am、is、areの使い分け	
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書6ページについて復習する	
2	be動詞・現在形(2)	be動詞のある文の疑問文、否定文	
	事前学習 60分	教科書7ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書8,9ページについて復習する	
3	一般動詞・現在形(1)	一般動詞の使い方、一般動詞のs	
	事前学習 60分	教科書11ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書10ページについて復習する	
4	一般動詞・現在形(2)	一般動詞の疑問文とその答え方、一般動詞の否定文	
	事前学習 60分	教科書11ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書12,13ページについて復習する	
5	多様な疑問文	疑問詞の使い方、疑問詞who、whose、where、when、orのある疑問文	
	事前学習 60分	教科書15ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書14～17ページについて復習する	
6	be動詞・過去形(1)	wasとwere、過去形と一緒に使われる語句	
	事前学習 60分	教科書19ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書18ページについて復習する	
7	be動詞・過去形(2)	疑問文とその答え方、否定文	
	事前学習 60分	教科書19ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書20,21ページについて復習する	
8	一般動詞・過去形(1)	規則動詞、不規則動詞、疑問文とその答え方	
	事前学習 60分	教科書23ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書22ページについて復習する	
9	一般動詞・過去形(2)	否定文、疑問詞のついた過去形の疑問文	
	事前学習 60分	教科書23ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書24,25ページについて復習する	
10	特殊な文(1)	There (is) are～の文、There (was) were～の文、命令文	
	事前学習 60分	教科書27ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書26ページについて復習する	

11	特殊な文(2)	否定の命令文、感嘆文	
	事前学習 60分	教科書27ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書28, 29ページについて復習する	
12	未来形(1)	willの用法、未来形の疑問文とその答え方、否定文	
	事前学習 60分	教科書31ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書30ページについて復習する	
13	未来形(2)／進行形	be going to～、現在進行形、過去進行形、疑問文とその答え方、否定文	
	事前学習 60分	教科書31, 35ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書32, 33, 34～37ページについて復習する	
14	まとめ	全体の振り返りと定期試験	
	事前学習 60分	教科書1～37ページを復習する	
	事後学習 60分	試験で出された分野について復習する	
15			

講座名	担当教員	開講時期
医療事務支援講座Ⅰ	まえだ やすとも 前田 康智	1,2年前学期
受講条件	医療事務・医療事務サービス演習を履修し、技能認定進行協会が実施する医療事務管理士技能認定試験の受験を前提とする者。	

講座の概要
「医療事務の基礎知識」「点数算定とレセプトの書き方」「公費負担医療、その他の制度」について、医療事務の授業内容をわかりやすく解説し、点数算定の方法を整理・復習し、最終的には医療事務管理士技能認定試験合格を目指す。

教科書・参考書・参考資料	
教科書	「医療事務サービス論（医療事務）」の授業で使用している教科書
参考書資料	社会保険研究所 医科診療報酬点数表 平成30年4月版

講座についてのメッセージ
医療事務管理士技能認定試験に合格するためには、「医療事務」の授業内容を確実に理解し、練習問題をこなし、着実に学習を進める必要がある。本講座では、「医療事務」の授業内容をわかりやすく解説し、一問でも多くの練習問題に取り組んでいくので、欠席、遅刻、早退のないよう、授業に臨むこと。

講座名	担当教員名	開講時期
医療事務支援講座Ⅱ	なかの みやこ 中野 都	1,2年後学期
受講条件	医療事務・医療事務サービス演習を履修し、技能認定進行協会が実施する医療事務管理士技能認定試験の受験を前提とする者。	

講座の概要
前期で行った「医療事務の基礎知識」「点数算定とレセプトの書き方」「公費負担医療、その他の制度」について、復習する。「点検」「外来」「入院」レセプト作成が確実にできるよう、練習問題、試験の過去問題などを多く実施し、最終的には医療事務管理士技能認定試験合格を目指す。

教科書・参考書・参考資料	
教科書	「医療事務サービス論（医療事務）」の授業で使用している教科書
参考書資料	社会保険研究所 医科診療報酬点数表 平成30年4月版

講座についてのメッセージ
医療事務管理士技能認定試験に合格するためには、「医療事務」の授業内容を確実に理解し、練習問題、過去問題をこなし、着実に学習を進める必要がある。本講座では、前期の「医療事務」の授業内容をわかりやすく解説し、一問でも多くの練習問題、過去問題に取り組み、合格に向けての勉強方法も指導していくので、欠席、遅刻、早退のないよう、授業に臨むこと。

講座名	担当教員	開講時期
情報技術活用講座	まえだ やすも 前田 康智	1,2前学期・後学期
受講条件	情報技術（情報技術Ⅰ）受講者、またはビジネスエクセル（情報技術Ⅱ）・ビジネスワード・ビジネスパワーポイント・情報技術Ⅲ・情報技術Ⅳ受講者で、パソコン操作や資格取得に意欲があり、積極的に取り組む姿勢のある学生を対象とする。	

講座の概要
Microsoft Word, Excel, PowerPointの各機能について、特に難しい操作について、繰り返し練習する。Wordであれば、特にインデント、タブ、図形の作成について、Excelであれば、特に構成比、関数（順位、四捨五入、検索）の操作について、PowerPointであれば、特にインデント、スライドマスター等の操作についてそれぞれ繰り返し練習する。前学期は情報技術（情報技術Ⅰ）受講者を対象に6～7回程度、後学期はビジネスエクセル（情報技術Ⅱ）、ビジネスワード、ビジネスパワーポイント、情報技術Ⅲ、情報技術Ⅳ受講者を対象に8回程度実施する予定。

教科書・参考書・参考資料	
教科書	なし（各授業で使用した資料や教科書を使用し、必要に応じてプリントを配布する）
参考書資料	特になし

講座についてのメッセージ
前期については、情報技術Ⅰabの受講者の中で、特に再練習が必要と思われる学生を個別に呼び出し、または個人的に練習を熱望する学生について、それぞれの学生の空き時間を設定して実施する。後期については、情報技術Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ受講学生に対して、資格支援のために、授業の延長として実施する。

講座名	担当教員	開講時期
デザインコンテスト講座	パツケ ^{いとう} 伊東	2前学期・後学期
受講条件	<ul style="list-style-type: none"> ●デザインに興味があり、やる気のある学生、 ●デザインに限らず、アイデアの出し方を学習したい学生。 	

講座の概要
【デザインコンテストにおける 作品の完成度・アイデア・ブラッシュアップ・プレゼンなど戦略レクチャーを行います。】 ★アドバタイジングデザイン（広告）、Webデザイン、写真、インダストリアルデザイン、コーポレートアイデンティティ(CI)、シンボルマークデザイン、タイポグラフィデザイン。ロゴタイプデザイン、筆文字（カリグラフィ）、切り絵・ちぎり絵、イラストレーション、キャラクターデザイン、店頭ファサード及びショップ名をデザイン、店舗内ブースの商品陳列を、パッケージデザイン（商品開発）、プロダクトアート・デザインetc

教科書・参考書・参考資料	
教科書	特になし
参考書資料	必要に応じて、授業内でプリントを配布。

講座についてのメッセージ
楽しく、うきうきと、作品の完成度とアイデアの面白さを、引き出す強いモチベーション（やる気）で続けてやり抜きましょう。

講座名	担当教員	開講時期
ファッション資格対策講座	はた くみこ 畑 久美子	1,2前学期・後学期
受講条件	ファッションやアパレル系企業への就職を目指し、「ファッション販売演習」または「カラーコーディネート演習」を履修し、「ファッション販売能力検定」または「ファッション色彩能力検定」または「色彩検定」を受験する者。	

講座の概要
検定主催者が提供するテキストと問題集を使用し、「ファッション販売演習」または「カラーコーディネート演習」で得た知識を復習しながら繰り返し演習を行い知識の定着を図る。過去問題を解き、実際の検定試験対策を確実にを行い合格を目指す。

教科書・参考書・参考資料	
教科書	「ファッション販売演習」または「カラーコーディネート演習」の授業で使用している教科書
参考書資料	適宜授業内で配布、または指示する

講座についてのメッセージ
ファッションやアパレル系の企業への就職を考えている場合、「ファッション販売能力検定」「ファッション色彩能力検定」「色彩検定」などの検定に合格することが望ましい。繰り返し問題を解くことで着実に合格に近づくので、合格への意志を持ち受講に臨むこと。